

No. 19 >>> Contents

●提携支援センターから

平成 22 年度蚕糸・絹業提携支援緊急事業の取組内容と今後の対応について 蚕糸・絹業提携支援センター	1
世界一の風合いを目指して 日本の絹を守る会 代表 舞鶴 一雄	4
伝統の近江真綿で純国産布団に取り組む提携グループ 近江真綿振興会グループ協議会 代表 北川 茂次郎	8
奄美大島で養蚕を復活し、提携グループを構築 奄美島絹推進協議会 会長 南 祐和	11
島に生きる 養蚕修行を終えて 奄美島絹推進協議会 会員 南 修郎	14
平成 23 年度第 1 次純国産絹マーク使用許諾状況 社団法人 日本絹業協会	17
提携支援センター活動日誌 No. 19	19

●今月の話題

高付加価値のある純国産絹製品に向けて 群馬県蚕糸技術センター 所長 小林 初美	20
--	----

●国内情報

蚕室洗浄剤でカイコの部屋をきれいにしましょう (財)大日本蚕糸会・蚕業技術研究所 主任研究員 代田 丈志	25
---	----

●海外情報

中国絲綢（シルク）協会の 2011 年度事業計画の内容	28
-----------------------------	----

●トピックス

国内産地情報、海外情報（中国）	31
-----------------	----

●横浜開港とシルク貿易

昭和初期の経済危機と蚕糸業 シルク博物館 元部長 小泉 勝夫	33
--------------------------------------	----

●イベント情報

●純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

●蚕糸関係博物館一覧

●蚕糸関係団体ホームページ一覧

●統計資料

(統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)

平成 22 年度蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の取組内容と今後の対応について

蚕糸・絹業提携支援センター

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業は、実質 20 年度からスタートし、22 年度で前半 3 年間の事業が終了。23 年度からは国産繭を生産する養蚕農家が「提携グループ」の一員として、蚕種・繭の川上から絹製品としての川下までの一貫した生産履歴の明確な「純国産絹」商品として流通することとなります。

なお、22 年度の事業内容の主なものは下記の通りです。本事業は、「蚕糸・絹業提携システム形成支援事業」と「蚕糸・絹業提携システム確立対策事業」に大きく分かれています。

蚕糸・絹業提携システム形成支援事業

この事業は、提携システムを構築するための支援を行うもので、提携事業運営の基本方針等の策定（蚕糸・絹業提携システム全国推進協議会の開催）や提携グループの申請に基づきその適性等を審査（事業推進委員会の開催）しました。これに加え、川上・川下における情報収集・提供（シルクレポートの発刊等）や提携システム構築の相談に対応するなどしました。また、提携システムの相談や蚕糸・絹業情報交換会を開催するなど、多くの情報提供を行いました。

提携システム構築のバックアップ事業として、各県で優良繭生産・特殊繭の生産等の内容で研修会を開催。養蚕の現場では、資材等の安定供給が課題となっており、全農を通じて養蚕農家の意向調査と養蚕資材の過不足等について調査を行いました。その結果、養蚕農家の意向による平成 23 年度の繭生産希望数量は、258 トンとなり、提携 58 グループの繭量と同程度となり、全国の繭量全量が提携グループに参加したこととなりました。養蚕用資材については、不足する「自動収繭毛羽取機用ゴムベルト」の供給体制の確立、回転簇のボール簇の商品開発（新たに国内でボール簇製造の検討）ができてきております。稚蚕安定供給事業も継続して行っており、全国 8 県の 17 稚蚕共同飼育所で対象となった稚蚕飼育の箱数は、6,235.25 箱の実績となっています。

一方、川下を中心として、「純国産絹製品」の普及・啓蒙活動を行っており、全国3カ所（群馬県立日本絹の里（高崎市）、ジャパンシルクセンター（東京都有楽町）、西陣織会館（京都市））にPRコーナーを設置しています。また、「純国産絹製品」展示PRのため、「美しいキモノ」に記事広告を載せるとともに、日本絹業協会に委託して、全国のデパート（日本橋高島屋、高崎高島屋、名古屋丸栄、熊本鶴屋）で、純国産絹製品を集め、一般の消費者等に宣伝も行っています。特に重要な「純国産絹マーク」については、「純国産絹マーク許諾者147業者、317表示対象製品（23年3月末現在）」となっています。

なお、提携グループの構築のためのコーディネーターの活動については、22年度まで限りで、新規の登録は受付を中止しており、かつ、23年度からは助成対象とはしていません。

蚕糸・絹業提携システム確立対策事業

この確立対策事業は、蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の根幹をなすもので、「提携グループ」を確立するための事業です。

既にご承知の通り、提携グループは、58グループを数え、全国の繭量をカバーしております。この全提携グループの詳細につきましては、本誌5月号に掲載しております。

ただし、今後、新規養蚕農家が誕生し、新たな提携グループができた場合も想定し、23年度に申請することもできるようになっています。

なお、23年度からは、それぞれの提携グループを通じて助成することとなり、昨年度までの「全農を通じた繭代補てん事業」はなくなります。

今後の取組

23年度は、前年度までに提携グループとして承認されたグループを対象に、事業目的に添った活動に対する支援等その着実な実行を期すこととしております。

緊急対策事業の主な内容は以下のとおりです。

(1) 構築された蚕糸・絹業提携システムのバックアップ支援

前年度までに提携グループとして承認されたグループの活動を全国的に展開するため、蚕糸・絹業の情報の収集・提供（情報誌「シルクレポート」の定期発刊）や情報交換、稚蚕・養蚕資材の安定供給、蚕糸・絹関係機械・資材の整備等に対する助成等養蚕農家、製糸業者等に対するバックアップ支援を行います。また、純国産絹マークの普及と適正利用を図ります。

(2) 蚕糸・絹業提携システム安定確立のための支援

形成された提携システムが消費者から高く評価される純国産絹製品の安定的な生産・販売

体制を確立し、養蚕農家をはじめ提携システム関係者が再生産可能な繭代や生糸加工費が得られるような蚕糸・絹業提携グループとして長期にわたって安定的に活動するグループとなるよう、繭・生糸の生産から最終製品の販売までの品質向上やブランド化のための取組に必要な初度的経費を支援します。

以上、提携グループの責任企業が中心となって、国産繭・生糸を使用した「純国産絹製品」の普及・啓蒙に全力を挙げて取り組みます。そのため、蚕糸・絹業提携支援センターは、各グループとの連携を強化して対応していくこととしています。

大日本蚕糸会研究成果発表会開催のご案内

財団法人大日本蚕糸会は、蚕糸絹業関係者をはじめ広く絹に関心のある方々を対象に、蚕業技術研究所、蚕糸科学研究所及び貞明皇后蚕糸記念研究助成による最近の研究成果を発表し、もって本会の研究開発活動への理解を深めていただく機会として、下記日程等により「大日本蚕糸会成果発表会を開催いたします。

日時等 平成 23 年 7 月 29 日（金） 13 時～ 15 時 30 分
 東京都千代田区有楽町 1－9－4 蚕糸会館 6 階 会議室
 TEL 03-3214-3411 Fax 03-3214-3415

成果発表内容

- （１）細織度系蚕品種の開発と利用（井上 元 蚕業技術研究所所長）
- （２）玉小石の牛首紬製作技術の開発と体系化（高橋弘直 大門屋店主）
- （３）ふい絹の開発と商品開発（清水重人 蚕糸科学研究所所長）
- （４）国産繭による絹箏弦の開発（徳丸吉彦 お茶の水女子大学名誉教授）
- （５）全体質疑応答

世界一の風合いを目指して

日本の絹を守る会

代表 舞鶴 一雄

昨今のきもの業界

我々の業界は、呉服過量販売問題以来、大きく変化し、3月の震災で未曾有の危機的状況に直面しています。

2008年頃、信販会社の与信規制から高齢者への販売減少などで小売段階における来店客数、買上率、販売単価の軒並みダウンといった状況となり、大きく売上げを落としている呉服小売店が多くなりました。その余波が当然川上にも影響し流通・メーカーとも過去に経験のしたことの無い状況に苦しみましたが、皆さんの努力により下げ止まり感が出てきた矢先での今回の震災でした。

西陣産地でも、ここに来て状況は加速度的に悪化し、原材料の高騰、単価ダウンが追い打ちをかけ縮小・廃業を余儀なくされ、このままでは産地としての機能を維持することも難しくなってきました。

しかし、こういった状況の中で善戦している小売店も存在します。そのお店の共通点は、消費者の目線に立ち、適正な価格で安心できる商品を満足感と共に提供してい

るところです。

これからは、安かろう悪かろうではなく着物ファンから要望され、安心できるこだわりの商品が必要となり、また昨今の産地・賞味期限偽装等、トレサビリティへの消費者の関心が集まり、顔の見える偽りの無い商品作りがますます大切になってきています。

提携グループ構築の経緯

私どもでは、以前から「感動・満足・安心」の三つをポリシーに単に良い柄、色目だけではなく、「こんな職人がこんな苦勞をして作りました」と言うこだわりをお客様にお伝えすることにより、感動・満足感を感じていただくと同時に日本の文化・伝統を伝えていくことを使命にしてきました。当然、技はもちろんの事、素材も上質でこだわりの物を使い続けてきました。

しかし、その中で年々生糸の品質が落ち、良質な生糸が手に入りにくくなってきたのです。そこで、以前から最良の風合いを求め、様々な生糸を試験してきましたが、ブ



〈写真1〉碓氷製糸工場前にて

ラジルや中国の糸では満足ができずに国内製糸・国内撚糸にこだわってきました。ところが器械製糸メーカーが2社になり、このままでは国内産の生糸が調達できなくなるという危機感を持ちました。この打開策を模索している中で調査してみると、私たちが当たり前に使っていた国産生糸が、西陣ではほとんど使用されず90%以上の生糸が、海外産のものである事が分かったのです。

ならばもっと良質の糸ができないか、国内産と海外産との差別化をもっとできないか。また、その差別化が付加価値となり国内製糸メーカーの存続の一助になるのではないかと考え、取組を始めました。これまでも私たちでは、春繭だけで限定生産をした糸も使っていましたが、どうしてもシーズンによっての品質のバラツキが生じ困っていました。

その原因の一つが複数の養蚕農家の繭が混じっていることにありました。そこで考えたのが、「限定した養蚕農家で作られた



〈写真2〉田端撚糸工場にて

春繭だけで糸が作れないか？」でした。

それまでは、今は営業していない国内優良製糸メーカーにお願いをし、西日本産の春繭で特別誂え製糸の生糸を作ってもらっていましたが、「限定した養蚕農家の繭」のお願いは叶えて頂くことは出来ませんでした。こんな思いを持っていた時に、碓氷製糸さんとの出会いがありました。一番最初、同社を訪ね、「春繭だけで生糸を作って欲しい」とお願いをしました。が、当時は「残念ながら今までにやった事が無い。」と言うことで良い返事がもらう事が出来ませんでした。しかし、そのとき工場を見学し、「絹織物メーカーが碓氷に来て生糸を作ってくれと言われたのは初めてだ。」(そのときの様子は地元の新聞に取上げていただきました。)と聞き、いずれは当方の希望する良い生糸が作ってもらえるのではないかと期待して帰ったのです。

数ヵ月後の6月の繭の上簇期に再度訪問しお願いをしたところ、「今までやった事は無いが、一度試験的にやってみましょ

う。」となりました。そして、碓氷製糸推薦の数軒の養蚕農家を見学し、最終的に細野地区の四軒の養蚕農家の繭で作って頂けることになり、良い糸ができる予感と期待が高まりました。その年の8月に入り、碓氷で細野地区の春繭を通常より厳しい二重選繭をし、六釜の繰糸機で繰糸してもらいました。

10月に入り、出来上がった生糸を小松の田端撚糸工場による「ふり掛け撚糸」と言う、今ではほとんど少なくなった撚糸で糸を仕上げました。その糸は非常に弾力性・白度・コシがあり前述の優良製糸の生糸を

上回る品質に仕上がっていたのです。

その後、6月に訪れた養蚕農家の一軒の上原さんの事がずっと気になっていました。それは、数軒の中で繭作りに対しての愛着・こだわりが一番強く、群馬県の中でも数少ない養蚕専業農家だったからです。翌年には、どうしても上原さんのこだわりの春繭だけで特別の生糸を作って欲しくなり、再び上原さんに会いに行き、お願いをしたところ快く受けていただくことになったのです。

そうして上原さんの春繭を前述の細野地区の時より更に選繭レベルを高め、通常の



〈写真3〉独特のふり掛け撚糸



〈写真4〉上原さんの給桑風景



〈写真5〉新繭補充工程での選繭



〈写真6〉碓氷製糸での低速繰糸



〈写真7〉春妃の製織

60%程度の低速で二倍の人員かけてゆっくりと繰糸してもらいました。出来上がってきた生糸は予想通り素晴らしい出来栄で節点こそブラジルには負けるものの光沢・伸度とコシについては優れているレベルに仕上がりました。

染め・織職人の感想を聞くと「50年ぐらい前の生糸の風合いに近い。」という感想の声が上がりました。この糸を「春妃」と命名し、上原さん、碓氷製糸、碓氷安中農協に生産産地証明を発行して頂きました。もう少し頑張れば、この春妃は世界一の良質生糸と評判のブラジルの6A格に勝てるかもと期待を抱かせてくれる生糸でした。

次にこの生糸を活かす撚糸・織組織を研究し、撚糸は田端撚糸のふり掛け撚糸、織組織は経糸6992本(通常、西陣では



〈写真8〉「春妃」絹製品の展示会

2400本が主流)の21中2本諸二重経錦地で製織することにし、約200本の限定生産品として私どもの展示会に出品しました。

おかげさまで厳しい環境の中、予定本数分を完売させていただくと同時にお客様に連携した養蚕農家、国内製糸メーカーを大きくアピールすると共に当グループのこだわりの物作りの姿勢も理解していただいたと思っております。

結びに

今後、当連携グループでは技術力を切磋琢磨し、さらなるレベルアップを図っていきます。また、更に新しい取り組みが出来る純国産絹製品を開発していきたいと考えています。

まいづる かずお

日本の絹を守る会 代表

(株)西陣まいづる 代表取締役社長

伝統の近江真綿で純国産布団に取り組む提携グループ

近江真綿振興会グループ協議会

代表 北川 茂 次 郎

はじめに

近江真綿振興会グループ協議会は、江戸時代中期から続く伝統及び技術をもった近江真綿と、愛媛県産の繭を融合させた提携グループです。

伝統ある養蚕の灯を消すことのないよう、広く一般社会に国産繭の良さを再認識させることにより、純国産近江真綿布団を普及させていきたいと思っています。

かつて近江真綿は、江戸中期以降、真綿作りを習い、工夫と苦心のすえ、これを広めてきました。明治・大正と生産を伸ばし、昭和になってさらに生産をのばし、全国的な特産地となっていました。しかし、真綿の需要が減退してきたことと、また安い中国産の真綿におされてきたために、細々と伝統が守られてきただけとなっていました。

そこで、十数年前、近江真綿の復活に望みをかけて、地元有志数名の真綿業者が「近江真綿振興会」を結成しました。近江真綿の技能を持った年配の女性たちとともに、もう一度琵琶湖のほとりで育まれた温もり

の手仕事である近江真綿を継承していくことを決意しました。そして、この「近江真綿振興会」が母体となり、今回の提携グループを構築することとなりました。

近江真綿とは

真綿の製造過程として、繭を煮る作業から始まり、繭剥き作業、そして最後に仕上げへとすべてが手作業となっています。

まず、大釜に湯を沸かし、大きな麻袋に繭を入れ、大釜で2時間余り煮ていきます。煮あがった繭は、水にさらしアクを落とします。アクを十分に落としたら、水切りを



写真1 「繭を煮る」



写真2 「繭剥き作業」

して、絡み合った繭をひとつずつはなす繭ちぎりを行います。この作業は根気のいる作業で、これがうまく出来ていないと次の作業で手間がかかってしまいます。

次に大きなタライに水をはり、繭ちぎりされた繭を浮かべます。これをひとつずつ中のさなぎを出して、水中で薄く引き伸ばして、四角い木枠（ゲバと呼びます）にかけていきます。厚さにムラができないように、これを順次繰り返して、繭20個（繭の大きさにもよります）くらいを目安にして一枚の角真綿を作っていきます。剥きあげた真綿は、10枚ずつたたんで結び、ま



写真3 「角真綿の乾燥」

た水に浸してアクを落とします。

浸しておいた真綿を絞って水を切ります。そして一枚ずつはなし、二人で真綿の四隅を持って引っ張り、板の上に形を整え、揃えていきます。これを竹に二、三枚ずつ並べて乾燥させます。そして最後に、乾いた真綿をきっちりと積み重ねて、ひもで結束して完成です。

この一連の作業はすべて手作業で行われているため、とりわけ繭剥きは熟練した技術が必要ですが、今後、後継者をどう確保・育成していくかが大きな課題となってきています。

真綿布団に

角真綿が完成し、次は、真綿布団を作っていきます。掛布団の一回りくらい大きな台の上で、角真綿を薄くして二人で息を合わせて引いていきます。この作業も根気のいる作業で、繰り返す、繰り返す、一枚一枚丹精込めて真綿を積み重ねていかなければなりません。こうして積み重ねられた真綿を成型して、真綿布団となります。ちな



写真4 「角真綿の手引き作業」



写真5 「愛媛県大洲市の桑園にて」

みに、中綿が2Kgの掛け布団を作るのに繭が7,000個から8,000個（繭の大きさによります）が必要となります。

愛媛県産の繭との出会い

国産繭を使用した近江真綿を復活させることが出来、全国にアピールするため、各地で展示・実演を行ってきました。実演の会場に来られたお客様から、「真綿って綿（めん）のことでしょ!」と言われるくらい、真綿が繭からできていることを知らないお客様が多いことに驚かされました。

真綿をもっと知っていただくため、さらには他の真綿布団との差別化を図るためにどうするか、試行錯誤が続きました。

そしてたどり着いたのが、抗酸化性・抗菌機能を有するフラボノイドを含有する緑繭1号など良質の繭を生産する愛媛県の農家の皆さんでした。



写真6 「近江角真綿の包装」

今後の課題

後継者対策は、緊緊の課題であることは間違いありません。魅力ある産業とすることで、若手の参入が切望されるところです。ただ、真綿づくり自体は、裏方作業であるためどんなに手間暇を掛けた作業といえども見た目には分かり難いため、消費者等に対して情報の伝達が非常に難しく今一つ知名度が上がらない原因の一つであると考えます。その課題を解決するためには、やはり、市場に対してインパクトのある新商品を開発し提供するとともに国産真綿についての情報発信を徹底することだと考えております。

そのためには、特にフラボノイドを含有する緑繭1号を使用した抗酸化性・抗菌機能を有する純国産真綿布団を市場に提案していきたいと考えております。

きたがわ しげじろう

近江真綿振興会グループ協議会
代表

奄美大島で養蚕を復活し、提携グループを構築

奄美島絹推進協議会

会長 南 祐和

奄美の養蚕の衰退

鹿児島から南へ約 380 km、奄美大島本島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島そして沖縄へと続く。かつては海のシルクロードとして日本本土へ、経済、文化、交易の道としての役目を果たしてきました。奄美大島本島のみならず、徳之島・沖永良部の島々でも養蚕が行われていましたが、昭和 40 年代頃の「きものブーム」にのり、本場奄美大島紬の生産も年間 30 万反の増産となったため、原材料の絹糸不足と安易に利益率を求めたことにより安価な外国産絹糸を使用することになり、併せて国策農業によるさとうきび奨励への移行等で昭和 50 年頃には奄美での養蚕は衰退し消滅していった経緯があります。

なぜ今養蚕復活なのか

かつて奄美の基幹産業と言われた本場大島紬の隆盛期である昭和 45 年には、年間約 300 億円となる島外からの外貨獲得産業でしたが、現在の奄美の経済状況は 10 億円にも満たない現状にあり、大島紬に代



わる産業も他には生み出されず人口も当時約 22 万人から約 11 万人と年々減少の道をたどっています。

国策推進農業であったさとうきびも外国産の価格には太刀打ちできず生産農家は減少しつつあり、亜熱帯気候である奄美には稲作は向かないためか、田や畑は荒地のままが少なくないのが現状です。

奄美は年間平均気温が 23 度もあり、一番冷え込む季節でも 10 度以下となりません。年間を通して雨が多く、植物の成長には適している地域であり、島に自生してい

る一年中落葉しない「島桑」を活用しての養蚕の復活を図ることとした次第です。

この島桑の活用方法としては、養蚕はもちろんですが葉からは桑茶、実からはジャム、木皮から糸の抽出など多様性に富んだ商品の事業展開が考えられ、これに伴い雇用の増大になるメリットもあります。

特に、きもの業界において（特に大島紬業界においては）今までの量産体制は望めず、希少価値のある商品へのニーズが増えている中、小ロットで製造者の顔の見える商品、語りのできる商品、まさに純国産のトレーサビリティのある商品が必要とされています。

当協議会では、当面、原糸の絹糸として地元の奄美産を使えるようにして、100%純国産の大島紬を完成させることを目標に、今春、大日本蚕糸会の支援のもとに大島紬業者、関係企業、農家とのグループ連携を構築しました。

今後の活動

ここまでくるのに何度も挫折しかけましたが計画から1年半、大日本蚕糸会提携支援センターのご協力で平成22年度内に桑園造成を65アール行った後、また5月中旬には本会員は本格的な養蚕研修を受講し6月に入り試験飼育を始めたところです。晩秋には本格的に繭の生産活動に入ることになり、来春から純奄美大島産大島紬、帯の誕生を予定しています。

最後に私たちの連携グループは、奄美で生まれ、奄美の桑で育ち、奄美で繭となり、奄美の人の手から手へと渡り、染色され絹布となって着る人を包みたい、さらにソテツや芭蕉木皮等の奄美の植物と融合させることも含めて、100%奄美産を目指して、新しい大島紬、帯や小物類、化粧品等を安定的に消費者にお届けしたいと考えております。





「宣伝用ポスター」



みなみ ひろかず

奄美島絹推進協議会 会長

(株)夢おりの郷 代表取締役社長

提携グループ奄美島絹推進協議会の会員（大島紬製織業者）が本格的な養蚕研修を受講しその報告書が届いていますので、ご紹介します。

島に生きる 養蚕修行を終えて

奄美島絹推進協議会

会員 南 修 郎

はじめに

「古き良き時代」という言葉があります。確かに昔・若い頃は良かった。

幼少の子供の頃の思い出は、今年、還暦を迎える私も、今でも夢に出てきます。それでは「新しき悪しき時代」という言葉は、どうでしょう？誰も望んでいない便利さを求め、科学技術はめざましく発達を遂げましたが、その弊害には、今、取りざたされているように多くの被災者を出した、東日本大震災があります。今でも進行中の原発問題、IT化の裏側に見られる情報漏れ等々…。これも人類の進化の歪みでしょうか？

私は、親の大島紬の家業を引き継いでいます。大島紬の歴史は、1300年と言われているのですが、年々生産も減り続け、世の中で大島紬・キモノは要らない物になったかなー。還暦を過ぎたら、自分自身も世の中から必要のない人間かなと、自問自答・葛藤の日々でした。

生意気にも、私は大島紬に関しては、多少は知っている自負がありました。

大学や大手デパートで講演したこともありましたが、大島紬は、言わずと知れた絹織物ですが、奄美大島では既に養蚕は姿を消してしまいました。

同じく家業の大島紬を営んでいる実兄が、以前から奄美大島で養蚕を復活し、地元の絹糸を使用して家業をやりたいと言っていました。初めは「絹糸なんて電話一本で手に入る。外国産だって同じシルクではないか」と、たかをくくっていたのです。正直、あまり乗り気はしませんでした。が、実兄の勧めもあってまず桑を植えることしました。

島に自生している「島桑」というもので、本土の桑木とは違うらしく、冬場でも、あまり落葉しないものです。島中の山野から、島桑の苗を探し出し、去年の梅雨に入り次第、植えつけました。島では雨が多く、雨具を着けても、ビショ濡れになりながら、兄と共に植えつけました。しかし、川下の



写真1「国の有形文化財の会社前で兵頭社長(右)とともに」(なかった)

大島紬はプロでも、川上の養蚕は素人の域を出ませんでした。

勇躍、養蚕修業へ

今回、大日本蚕糸会提携支援センターのご協力・ご紹介で、愛媛県八幡浜市保内町の愛媛蚕種株式会社に、養蚕の修行に入ることができました。自宅を出発の際、先祖の仏壇に線香をあげました。親父の遺影が、「修郎 お前の修は、修行の修だ！」と、言われた気がします。

奄美大島から、飛行機を乗り継ぎ、バス・汽車・タクシーと乗り継いで、やっと保内町にたどり着きました。次の日の朝、早速、研修先の愛媛蚕種(株)を訪ね、社長の兵頭眞通さんがすぐ出て来られ、案内された会社にビックリ！歴史そのものである三階建ての木造瓦葺です。私の子供の頃の小学校は、平屋の木造でしたので、元々は、旧学校かなと思いましたが、明治・大正の香りを残した国の有形文化財に指定されているとの

ことで、その貫禄に圧倒されました。

蚕室なのでしょう、各部屋には 第…… 號室と明記されていて、「號」の文字一つにしても重みがあり、聞けば明治17年創業で建物が建てられた頃は、高層ビルだったに違いないものです。

兵頭社長は、五代目だそうで、気さくな美人の奥様と、おとなしくて人なつっこい愛犬アーサーがいて、私も犬を飼っているの、犬の話で意気投合。(蚕の話では、

日常の仕事を手伝いながら、研修内容は
①掃立、毛振り調査、拵座、補給餌、1眠時拵座、除湿 ②2令給餌、拵座、補給餌2眠時拵座、除湿 ③3令給餌、綱入、拵座、補給餌、除沙、拵座、補給餌、3眠時拵座、除湿 ④4令給餌、拵座、補給餌…と目まぐるしく続けました。

大日本蚕糸会から、図解養蚕という本を読んでおくように言われていましたが、もとより子供の頃から勉強は好きでなく、掃立(ハキタテ)の読み方も、初めて分かった次第です。

上記各作業は、見るも触るも初めて、履物から衣服・手袋・マスクまで消毒して清潔にする。ついでに、これまでの自分そのものが、消毒された気持ちです。

これら、絹の原点も知らない私が、大島紬をいくら作っても原点を語れないものは売れないはずであると、これまでのわが身を恥じる思いでした。



写真2 「桑取り、しょいこが重いです」

愛媛蚕種(株)の事務室にある大正12年全国蚕種製造家番付で(当時は日進館)西の関協でした。ここで関協であれば、全国の養蚕・絹がわが国の外貨獲得産業のトップの座を占めていたことが計り知れます。世界の絹の供給国であり、日本経済を支えた事実が垣間見え、今なお皇居にて皇后陛下が、ご養蚕をなさっている大事な日本文化の一つであるのでしょう。

一日中、愛媛蚕種におじゃましていると、取引先は全国の養蚕農家だけでなく、医薬品会社や東京大学を始め、国立大学、有名大学の研究室に発送しており、蚕の用途の多様性・裾野の広さ、まさしく蚕は天の虫と書く意味を感じました。

養蚕修業を終えて、愛媛蚕種(株)から、稚蚕を譲り受け、今練習のため蚕を飼っています。琉球多蚕繭と、春嶺鐘月の二種類です。琉球多蚕繭は、繭になり黄金色に輝いています。



写真3 「補給餌作業」

故きを温ねて新しきを知る

今や蚕の成長とともに、頭の中は、奄美で島の桑を食べさせ、島の蚕を育て、島の絹を作り、島の草木で染め、泥で染め、島で織り上げる。「故きを訪ねて、新しい大島紬を創りたい。」この作品のイメージが、泉のごとく湧き出ています。還暦は、暦が還ると書きます。お陰様でこれからの人生の方向が、決まりました。“天の虫”蚕のおかげです。

最後に、大日本蚕糸会、愛媛蚕種株式会社の皆様、大変お世話になりありがとうございました。

みなみ しゅうろう

奄美島絹推進協議会 会員

(株)みなみ紬 代表取締役

平成 23 年度第 1 次純国産絹マーク使用許諾状況

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成 23 年度第 1 回審査会を 4 月 25 日（月）に開催しました。今回、6 件（うち、新規の申請 1 件、製品の追加申請が 1 件、生産履歴の追加申請が 2 件、生産数量の追加申請が 2 件）から申請があり、審査委員会で審査した結果 6 件に対し、5 月 9 日（月）付けで純国産絹マーク使用許諾する旨を通知しました。この純国産絹マーク使用許諾者は次の 6 件です。

なお、今回の許諾により合計使用許諾者は、148 社と拡大しました。（本誌の使用許諾者一覧参照）

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
株式会社芦田呉服店 代表者名 芦田 孝子 京都府綾部市西町一丁目 46 番地 2 (担当者：芦田孝子) TEL 0773-42-0033 表示者登録番号 1 4 8	後染反物 (色無地)	10 反	制作企画 第一衣料（株） 繭生産 茨城県南地域養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物（株） 染 色 (株) 中田勝
(製品の追加) 株式会社布屋呉服店 代表者名 小長井 宏員 静岡県富士宮市西町 5 番 21 号 (担当者：小長井宏員) TEL 0544-27-2580 表示者登録番号 1 4 4	(製品の追加) 後染反物（小紋） (変一越) (紋意匠)	15 反 15 反	制作企画 田中種（株） 繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん（株）、芝井（株） 染 色 高田勝（株）
(生産履歴の追加) 株式会社小いけ 代表者名 小池 泰弘 山形県鶴岡市本町 1-8-43 (担当者：小池泰弘) TEL 0235-22-3215 表示者登録番号 0 3 4	(履歴の追加) 後染反物（小紋） (変一越) (紋意匠)	15 反 15 反	制作企画 田中種（株） 繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん（株）、芝井（株） 染 色 高田勝（株）
(生産履歴の追加) 株式会社染織館 代表者名 後藤田 光年 徳島県徳島市昭和町 3-11-1 (担当者：後藤田光年) TEL 088-652-3377 表示者登録番号 1 4 0	(履歴の追加) 後染反物（小紋） (紋意匠)	30 反	制作企画 田中種（株） 繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 芝井（株） 染 色 高田勝（株）

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
(生産数量の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名 小林幸夫 群馬県高崎市問屋町 3-5-3 (担当者：土井芳文) TEL 027-361-2377 表示者登録番号 0 2 1	(数量の追加) 白生地 (紋意匠) 胴裏絹 (酵素精練) ぐんま 200 胴裏絹 (酵素精練) ぐんま 200 胴裏絹 (トルマリン加工) (灰汁浸け加工) 世紀 21 胴裏絹 (パ-リ-加工)	80 反 400 枚 1,000 枚 1,700 枚 3,300 枚 400 枚	制作企画 絹小沢 (株) 蚕品種 上州絹星、世紀二一、 ぐんま 200 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 江原産業 (株)、坪金工業 (株) 山直織物 (株)、丸進機業 (株)、 (有) 長島織物 精練加工 丹後織物工業組合、(有) 江島 屋染工場 加 工 キヌテック (株)
(生産数量の追加) 株式会社細安 代表者名 小林 慎二 福井県福井市手寄 1 丁目 9 番 18 号 (担当者：小林慎二) TEL 0776-22-7878 表示者登録番号 0 7 6	(数量の追加) ぐんま 200 胴裏絹 (酵素精練)	400 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発 (協) 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 山直織物 (株) 精練加工 (有) 江島屋染工場



「100%東京生まれの純国産絹きもの (東京シルクの小紋)」

提携支援センターから

支援センター活動日誌No. 19 (H23.5.1 ～ H23.6.30)

年月日	活 動 内 容 等
23.5.31	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る養蚕用資材の打合せ（埼玉県）
23.5.31 ～ 23.6.3	純国産絹製品展（京都府 京都産業会館）
23.6.10	純国産絹製品展示PRコーナーの運営等に係る情報連絡会 （東京都有楽町 蚕糸会館）
23.6.28	蚕糸・絹業提携グループ情報連絡会（東京都有楽町 蚕糸会館）
23.6.30	（社）日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会 （東京都有楽町 蚕糸会館）



「京都で開催された純国産絹製品展」



同左絹製品展会場内の様子

高付加価値のある純国産絹製品に向けて

群馬県蚕糸技術センター

所長 小林 初美

私が蚕業試験場（現在：蚕糸技術センター）の勤務を始めたのが昭和 50 年です。当時、本県では蚕糸業が盛んで、養蚕を中心に地域が活気に溢れていました。その頃、本県の養蚕農家戸数は、約 4 万 8 千戸、収繭量は約 2 万 2 千トンもありました。その後、養蚕離れが続き、20 年経過した平成 7 年には収繭量が約 2 千トンにまで減少しました。その原因が安価な外国産の繭、生糸、絹製品の輸入増大による繭や生糸価格の低迷にありました。そこで、本県は、外国産と差別化を図るため、特徴のあるオリジナル蚕品種の育成、普及推進などで群馬の蚕糸業を支援してきました。それでも、平成 22 年の収繭量は、111 トンと存亡の危機が目前に迫っていますが、当センターでは、何とか蚕糸業を復興させたい一心で、さまざまな業務に当たっていますので、その取り組みの概要を紹介します。

1 群馬オリジナル蚕品種の育成と普及推進

群馬県では、当初、繭・生糸の生産性が高く、普及品種より高品質な生糸が安定生産できる蚕品種を育成し、群馬ブランド事業で普及を推進しました。平成 10 年蚕糸業法の廃止により、生糸需要者の要望を更に重視した特徴のある蚕品種の育成を行っています。これまでに育成した群馬オリジナル蚕品種は 7 品種であり、本県における平成 22 年度の普及率は 54% に達しています。これら蚕品種の特徴や飼育技術指導について紹介します。

（1）群馬オリジナル蚕品種

- ①「世紀二一」は、繭糸繊度がやや細く、長糸長（約 1,500m）で太さにムラが小さく、良質な生糸が生産できることから高級和服用として平成 3 年に育成されました。この生糸を使った織物は染色性に優れ、染め上がりが美しく、気品と風合いがあります。
- ②「ぐんま 200」は、繭糸の太さや長さが普通品種とほぼ同じですが、生糸は白度が高く、収量の多い品種です。また、繭糸のほぐれが良いため、繰糸能率や生糸品質も良好で和装、洋装問わず、幅広く利用されている品種です。幼虫は強健で



写真1 「世紀二一」



写真2 「ぐんま 200」



写真3 「新小石丸」



写真4 「ぐんま黄金」

飼育しやすく、オリジナル蚕品種の中では最も多く飼育され、平成22年度の収繭量は、47トンです。

- ③「新小石丸」は、皇居で飼育されている在来種「小石丸」を改良した交雑種であり、「小石丸」の特性を備え生産性を向上させた品種となっています。繭の形は、在来種特有の俵型で、繭は軽い。生糸量は少な目ですが、太さにムラがなく、節も少ないため、高級和服用として利用されています。
- ④「ぐんま黄金」は、「ぐんま」に黄繭種を交配した品種で、繭糸繊度はやや細く、繭糸のほぐれが良好な品種です。生糸の

色は鮮やかな黄金色を呈しています。

- ⑤「新青白」は、群馬県藤岡市周辺で育成されたと言われる「青白」に「200」を交配した品種で、繭糸の太さは普通品種と同程度、糸長は短い。繭糸にフラボノイドを含み、薄緑の光沢のある生糸になります。
- ⑥「蚕太」は、4デニール以上の太い繭糸を生産する品種です。この特徴を活かし、生糸はニット用などの新しい分野に利用できます。幼虫は蚕座に潜る性質があり、養蚕農家にとっては、やや飼育しにくい品種です。
- ⑦「上州絹星」は、在来種「又昔」と「二」



写真5 「新青白」



写真6 「蚕太」



写真7 「上州絹星」

を交配し、実用的な品種に改良しています。生糸の強力と伸度が大きく、織物は破れにくい特徴があります。この品種は平成19年に育成され、農家で飼育されていますが、これ以降は、群馬オリジナル蚕品種として認定された品種はありません。現在、繭糸繊度が細い品種を育成し、企業が製品開発を行っています。絹布は「ぐんま200」より際だって白く、破断に強い性質がありますので、利用が増えることを望んでいます。また、いつでも要望に応えられるよう、100種の遺伝資源を保存しています。

(2) 農家への飼育技術指導

これらの群馬オリジナル蚕品種は、飼育経過がさまざまで、特に、稚蚕期の飼育取扱いが難しくなります。食餌中は飼料が乾燥しないよう湿度90%とし、脱皮する眠中は、湿度60%にして脱皮した蚕が飼料を食べないように飼料の乾燥を図る必要があります。ところが、稚蚕共同飼育所では食餌期間に差がある数種の品種を同時に飼育しなくてはならず、飼育開始時期をずらして対応していますが、眠期乾燥の除湿開始時期が、その後の蚕の経過の揃いに大きく影響しますので現場の指導は綿密に行っています。

壮蚕期も品種により食桑量や発育経過が異なりますので、品種別に飼育標準表を作成し、農家を集めた講習会や現地指導を行って、品種に応じた飼育方法を徹底し、特徴を発揮する良質な繭の生産に心がけています。

2 遺伝子組換え技術を利用した

高機能シルク生産の実用化

平成12年に現在の独立行政法人農業生

物資源研究所が世界で初めて遺伝子組換えカイコの作出に成功しました。以来、本県は、同研究所の協力の下、共同研究を実施し、抗菌生糸を産生する組換えカイコの作出等の研究を行ってきました。この抗菌生糸については発現量が実用レベルに達していないため、更に改良が必要ですが、同研究所が中心となって作出した緑色蛍光、赤色蛍光絹糸や超極細繊維度絹糸を産生する組換えカイコについては、実用的な品種になっています。しかし、組換えカイコはカルタヘナ法に準拠した飼育が義務づけられていて、どこでも飼育できるわけではありません。そこで、本県では、これらの組換えカイコを産業利用するため、休止している

稚蚕共同飼育所や養蚕農家を利用してカイコの拡散を防止した飼育法の研究を実施しています。この研究が順調に進み、カルタヘナ法の申請、確認が取れば、平成24年度には養蚕農家における組換えカイコの飼育実証試験が実施される予定となっています。

従来の交配による品種改良では限界があります。外来遺伝子導入による高機能を備えた絹糸であれば、付加価値の高い製品が開発されと考えています。

3 蚕糸業維持のための技術支援

蚕糸業の規模があまりにも縮小したため、県が支援しなければ蚕糸業が維持でき



自然光での様子



蛍光を発する様子

写真8 緑色、赤色蛍光を発する糸を用いた製品（提供：（独）農業生物資源研究所）
蛍光絹糸は、自然光下でも淡いパステルカラーを呈する

ない状況になっています。そこで、群馬県は、養蚕農家や国産シルク需要者の要望に応えるべく、民間企業が撤退した蚕種製造・配布や人工飼料製造・供給などを行っています。

（１）蚕種製造配布

群馬オリジナル蚕品種の蚕種製造を行っていた業者が平成 12 年を最後に撤退し、県内には蚕種業者がなくなったため、翌年から当センターが、その蚕種の製造を行っています。繭切開、蛹の雌雄鑑別、交配、採種のほとんどが手作業であり、短期間に集中するため、職場内の協力体制を整え業務に当たっています。これら蚕品種の繭や生糸は、養蚕農家や製糸業者の経営安定に貢献しています。また、蚕種は全国からの要望に応じ、教材や研究用などにも多数利用されています。

（２）人工飼料製造供給

稚蚕人工飼料センターは、昭和 53 年に設置され、農業団体が長年にわたり、人工飼料の製造を行ってきました。しかし、生産量の減少から採算が合わず撤退し、平



写真 9 「蚕種製造現場にて」

成 21 年から県直営で製造を行っています。ここでは、飼料に使用する桑粉末の製造と湿体飼料製造を行っており、製造中に抽出したサンプルを使用して、蚕への給餌試験や飼料の物性などを調査し、安全を確認した上で製品を出荷しています。商品の製造は細心の注意を払う必要があり、機械の老朽化と使用頻度の低いことで故障等も多く、担当者の気苦労は、計り知れないものがあります。

平成 22 年度の製造量は約 66 トンで、飼料は県内の飼育所、養蚕農家はもとより、県外 10 県に供給され、養蚕や試験研究などに利用されています。

こばやし はつみ

群馬県蚕糸技術センター 所長

蚕室洗浄剤でカイコの部屋をきれいにしましょう

(財)大日本蚕糸会・蚕業技術研究所

主任研究員 代田 丈志

1. カイコを健康に育てる

カイコは「家畜以上に家畜化された昆虫」と言われます。餌がなくなっても逃げないし、人をかまないし、他の虫でみられる共食いもなく、おとなしいので大量飼育が可能です。長年、お蚕さまとか蚕児と呼ばれ大切に家の中で飼育されてきました。そのため、気象環境の変化や病原菌の侵襲に弱い面があります。

最近では、春蚕期に気温が低くてカイコの成長が遅れたり、逆に初秋蚕期は暑くて飼育場所が37℃を超えることがしばしばあったり、雨が少なくなるときには桑葉が硬くなり、晩秋蚕期も暑さが続き秋らしくない気候であったりします。このような厳しい気象環境ではカイコは病気になりやすいのです。

カイコを健康に育て良い繭を生産するのが養蚕の基本ですから、まず、カイコが病気にならないように注意することが大切です。カイコに病気を引き起こすものには、人と同じくウイルス、細菌、カビ、原虫があります。これらからカイコを守るために、明治から平成の今日まで長らくホルマリン

が消毒に使用されてきました。カイコを飼育する場所を事前に消毒していましたが、そのホルマリンの使用が環境面や健康面から困難になってきました。

2. 蚕室を洗浄する

ホルマリンを使うことなくカイコの病気を防ぐためには、蚕室を清浄に保つ必要があります。そのため、新たに蚕室洗浄剤を開発しました。この洗浄剤は、図1に示したように、次亜塩素酸ナトリウムと炭酸ナトリウムとポリリン酸ナトリウムから構成されています。いずれも食品添加物として認められているものです。

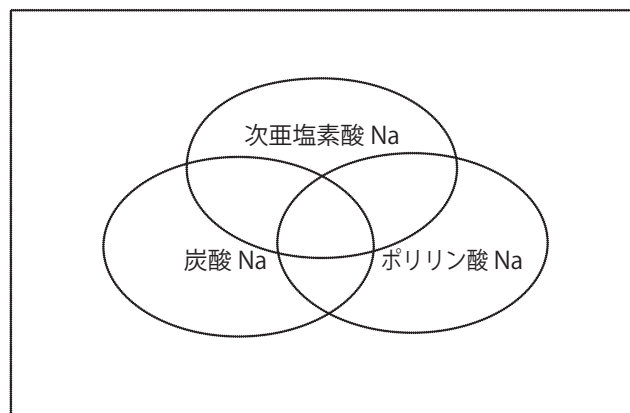


図1 蚕室洗浄剤の組成

洗浄液は pH が約 11 のアルカリ液でなければならぬので、炭酸ナトリウムが必要です。そして除菌効果のある次亜塩素酸ナトリウムを加えますが、次亜塩素酸ナトリウムは金属をさびさせますので、さび止めとしてポリリン酸ナトリウムを加えます。

洗浄液を作る際には、まず容器にある程度の水を入れ、最初にポリリン酸ナトリウムを少量ずつ棒でよく攪拌しながら溶かします。つぎに、炭酸ナトリウムを加えて溶かし、引き続いて次亜塩素酸ナトリウムを加え、最後に水を足してできあがりです。水道水と井戸水は使用できますが、海水や汚れた河川の水は使わないでください。

洗浄液の散布は、農家の狭い稚蚕飼育室では背負い式の噴霧器が適していますが、広い蚕室では動力噴霧機の使用が便利です。1 m²あたり 1 リットルを散布して十分に洗浄してください。カイコに悪いばい菌（ウイルス、カビ、細菌、原虫）も除菌することができます。洗浄液はかすかに塩素



写真1 背負い式噴霧器で農家の稚蚕飼育室を洗浄

ガスの臭いがします。散布する際には防毒面の使用をお勧めします。また、カイコや桑葉には害がないことを確かめてありますが、念のためにかからないように配慮してください。

今、(財)大日本蚕糸会の蚕糸・絹業提携支援センターが洗浄液の作り方と使用方



写真2 動力噴霧機で広い蚕室を洗浄



写真3 核多角体病ウイルスに感染したカイコが死んで内部が汚染された繭

法のマニュアルを作製しています。また、技術的な問い合わせは蚕業技術研究所が承ります。なお、この蚕室洗浄液は蚕業技術研究所、群馬県蚕糸技術センター、(独)農業生物資源研究所と共同で開発しました。

3. 養蚕現場におけるカイコの病気

以前、養蚕農家をしばしば訪れ、蚕作と病気のことを調査したことがあります。蚕室などからホコリ（塵埃）を集めて調べてみると、伝染性軟化病ウイルスや細胞質多角体病ウイルス、核多角体病ウイルス、カビ病菌がみつかりました。とくに多かった

のは核多角体病ウイルスでして、俗に膿病（のうびょう）と呼ばれていますが、農家の方々は「膿病のカイコが出始めたのであと2日で繭をつくる」と会話している状況でした。この膿病で困ることは、繭の中でカイコが死んで内部を汚染して不良繭とすることです。

このようにカイコの周りには悪いばい菌（ウイルス、カビ、細菌など）が多くありますので、飼育場所を洗浄し除菌する必要があります。先に奨励しています消石灰上澄み液の散布と併用して使用されることを望みます。

しろた たけし

(財)大日本蚕糸会・蚕業技術研究所
主任研究員

中国絲綢（シルク）協会の 2011 年度事業計画の内容 （中国国際シルクフォーラムの開催など）

中国最大のシルク業界団体である中国絲綢（シルク協会）（会員数 :500 社余）の本年度の事業計画が公表されている。今年度の中国シルク情勢の動向を知る参考になるので紹介する。

○中国絲綢（シルク）協会の紹介

1986 年に創設され、中国シルク業界の主な生産企業が会員として構成された機関である。現在の会員企業・関係機関は、全国の蚕糸主産地の浙江、江蘇、上海、四川、山東、安徽、重慶、広東、広西（自治区）、遼寧などの絲綢公司を始め、全国の主要な乾繭の収納、製糸、撚糸、絹製織、絹製編、絹染色、絹服装・製品及び関係機械の生産と研究にかかわる多くの企業、研究機関、大学等教育機関を含めて約 500 社近く、シルク業界最大の業界団体である。その上部機関は国務院国有資産監督管理委員会で、本事務所は北京にある。また、中国商務部（繭絲綢協調弁公室）、中国工業情報化部、中国質量検閲検疫総局、中国標準化委員会等の政府機関の監督下に業務を行い、中国紡織（繊維）工業協会などの関係機関と業務連携している。

主な業務内容

1. シルク業界における調査、統計資料の

収集、整理と情報の発行

2. 政府の委託によるシルク業界の安定的な発展のための計画の策定及び業界関係機関との連絡・調整
3. 各種シルクの検査、シルク規格標準の策定
4. 会員企業の将来発展計画策定への協力・指導
5. 会員企業の間で行われる情報交換会議（蚕繭供銷会議）及び技術研修会の主催
6. 高級シルクマークの管理とその普及・宣伝
7. 国内及び海外新市場の開拓（絹需要拡大事業）

○ 2011 年度主な事業計画の概要

1. 2011 年度中国国際シルクフォーラムの開催

中国国際シルクフォーラムは、2006 年、2007 年及び 2009 年と 3 回開催されている。世界のシルク関係主要国の要人が一堂

に会し、技術を含めた講演、情報交換を行い、各国の技術協力、貿易交流を促進し、国際レベルでのシルク産業の更なる発展を図ることとしている。本年は、中国絲綢協会及び杭州市政府との共催で浙江省杭州市で9月23～24日に開催を予定している。

2. 自動繰糸機による製糸技術の習得及び その保全人材の育成

2009年度は製糸行程の保全技術マニュアルを作成し、当該技術研修会を各地で開催、2010年度は製糸設備保全工（職員）の全国技術コンテストの開催（「機械3分、保全7分」の諺のごとく生糸品質に直接影響するのは、自動繰糸機の補修・保全にあるとの認識のもとに中国紡織工業協会、中国職業訓練センター及び中国煙草協会との共催により開催）したが、本年度は先進的繰糸の補修・保全方法を全国に普及・拡大するため、各地で実技指導講習会と学識専門家による「自動繰糸機補修・保全管理操作マニュアル」の解説・説明会を開催して、中国製糸工場の管理技術の一層の向上を図ることとしている。



写真1 中国の製糸工場

3. 「生糸電子計測基準」の完成とシルク品質基準の適正改訂の促進

生糸電子計測方法の国際基準化に関しては、本年はラストスパートに当たる年次となる。このため中国シルク標準化委員会は、当該計測方法に関して各種研究を進めるとともに、関係各国との交流を深め、ISO国際基準となる草案の取りまとめに万全を期することとしている。同時に、シルク関係の2つの国家基準と13の業界基準の適切な改訂作業を行う予定である。

4. 中国高級シルクマークの普及拡大促進 事業の継続実施

高級シルクマークは、2002年12月に国家工商行政管理総局商標局より認可取得し、2004年8月より正式に市場で使用されるようになった。（当時の取得企業14社、現在の取得者は27社余。）本年は、中国絲綢協会主催によりこれの普及・拡大のための座談会を開催し、衆智を集めて有益な宣伝方策を確立することとし、特に最近、販売実績が急成長しているネットによる販売事業を拡充・強化することとし、シルク全体の需要増進を行うとともに高級シルクマーク絹商品の市場占有率の向上を図ることとしている。

5. 第6回会員代表大会の開催

本年は、定款に基づき役員等改選時期であるため中国絲綢協会にとって重要な年次となる。協会事務局としては、民生部及び国务院国有資産監督管理委員会等の監督官

庁と密接な連携のもとに第6回会員代表大会の開催の準備工作を行うものである。

6. シルク業界における統計の整備及び情報事業の継続実施

全国シルク系統（web）の運営強化による情報発信、中国繭絲綢生産統計系統（web）の継続実施による情報収集及びシルク年鑑等情報誌の編集・発行を積極的に行うものである。

7. 業界発展のための各種工作活動の展開

国家発展改革委員会、工業情報化部、商務部（国家繭絲綢弁公室）及び中国紡織（繊維）工業協会等の関係部門の協力を得て年度当初の絲綢協会秘書長会議及び各蚕期前のシルク情勢分析会議を開催するほか、業界功労者表彰事業を実施するものとする。



写真2 「中国の高級シルクマーク」

国内産地情報

絹織物産地の概況（5月）

大震災による先行き不透明感から、織物の商いは全般的に低調である

<原糸>

中国における原料手当ては、春繭は天候異変で収繭は遅れている。繭価は強含みであり中国国内における還付税の引き下げ予測されており先行きの原料価格は高くなりそうである。

国内での取引は災害の影響で全般的に模様眺めであり当用買で既契約の消化が優先されている。

<白生地>

- ・丹後の5月の縮緬生産量は、前年比93%の減産となり月日を追うごとに売り約定が出来にくくなっている。稼働日数は19日と前年より1日少ない。無地系は前年比100%で、紋系は92%となっている。
- ・長浜の生産は、前年比88%となり5カ月連続で前年を下回っている。稼働日数は16日と前年より1日より多い。古代は増産となった。
- ・五泉は、生産反数が14.3%の減となった。羽二重、駒塩瀬は増産となっている。
- ・福島は、風評被害による受注減少が予想される。
- ・石川は、女性有志で小松綾子を使った装飾品を製作したイベントが開催されている。
- ・福井は、広幅羽二重は前年比10%の減少、小幅羽二重は同20%の増となった。
- ・群馬・埼玉は、数量は少ないが生産量は昨年実績を上回った。震災の影響は落ち着つつあるが、回復の兆しはない。

<先染織物>

- ・西陣の帯は、一部の安価な商品は売れているが、全般的には生産減となっている。
- ・博多は、小袋帯は前年を上回っている。しかし全体では生産調整しており減少である。
- ・十日町は、売行きは紬緋が伸びて前年比7%の増となったが、全体での売行きは減少している。生産数量では訪問着、振袖が増となっている。
- ・米沢は、呉服の荷動きが悪く震災の影響が出た模様である。服地は風評で荷動きが停滞したままである。
- ・山梨は、ネクタイは一部に動きはあったが全体的には少ない。服地はサンプルと多少の動きはあったが生産量は少ない。
- ・西陣のネクタイは一部のメーカーには発注が入ったが、全体的にはクールビズの影響で苦戦している。

＊（社）日本生糸問屋協会月報 23.6.15 第748号による。

海外シルク情報

中国

中国生糸価格の上昇は労賃アップも影響

生糸製造費の中で占める比率の高いのは、原料繭代と労働賃金である。

中国の労働賃金の実態を国家統計で見ると、リーマンショックによる世界同時不況の2008年以前からの趨勢で、その上昇率は1999年から昨年まで年々10～15%の2桁台の伸び率で推移してきている。しかし、一昨年の2009年度にあっても年間1人当たり従業員平均賃金は32,244元（約42万円）と欧米先進国に比べ依然として低賃金であることと農村部の大量の余剰労働力が都市部に農民工（出稼ぎ労働者）として参入することで賃金の上昇圧力を低減した結果が、中国繊維産業は、安価で豊富な労働力を活用しての「世界の工場」として急成長して訳である。ところが、2008年の労働契約法施行など労働者保護が進むとともに、三農対策の実施や農村の都市化の推進で出稼ぎの必要性が低下したことから、一昨年頃から全国的に賃金の大幅上昇を求める労働争議が多発し、最低賃金で2割以上のアップが全国ベースで進んでいる。シルク産業も例外ではなく、昨年は史上最高の繭代が実現し、加えて製糸の従業員確保のための賃金アップが拍車をかけている。従って、これらの要因から生糸価格は昨年から今年にかけて大幅に上昇し、現在、日本向け高格品の生糸輸出価格は約60ドル/kgと過去最高値を記録している。ちなみにブラジルの場合でも同様の物価上昇もあって、著名なブランド向け生糸輸出価格は90ドル/kgとなっており、当分の間、生糸価格の上昇が続く気配である。

最近の中国春繭価格の動向

中国では、概ね20省（市、自治区）以上の産地で養蚕が営まれている。昨年度は史上最高の繭買上げ価格等により久し振りに増産となった。今年の春繭の生産は、4月中旬から南方の広西・広東からスタートし5月末頃から優良繭産地の浙江、江蘇で春繭が出回り始めている。これら産地の農家からの繭買上げ価格は、現在、最大の産地・広西で41～46元/kg（533～598円/kg）、広東で41～44元/kg（533～572円/kg）、浙江で45元/kg（585円/kg）前後、江蘇で42元/kg（546円/kg）前後となっている。そして、これらの春繭買上げ価格は前年比約30%以上の値上がりとなっている。

一方、現地の生糸価格は、今年に入って一度は400元/kg（5,200円/kg）の大台を突破したが、最近では380～390元/kg（4,940～5,070円/kg）台で推移しており、今後の繭価格の動向如何では先行き強含みになる気配を見せている。

＊（社）日本生糸問屋協会月報 23.5.16 第747号及び 23.6.15 第748号 による。

昭和初期の経済危機と蚕糸業

シルク博物館

元部長 小 泉 勝 夫

昭和時代に入ると、読者の皆様もよくご存知のように、わが国は外交をはじめ政治・経済面で、大きな転換期を迎えていました。

その大きな動きをみると、軍部の台頭、満州事変、国際連盟脱退、日中戦争を経て、ついに 1941（昭和 16）年 12 月には太平洋戦争に突入したことなどを上げることができましょう。

わが国は、このような状況の中で、昭和初期の金融恐慌や世界経済恐慌に遭遇し、国民生活は疲弊の度を深めるばかりでした。

わが国の蚕糸業界も、今まで経験したことのない長期の不況に立たされてしまいましたので、この概要を次に紹介しましょう。

1 昭和 2 年の金融恐慌

関東大震災で産業界は大きな被害を受け、銀行では手持ちの手形が決済できなくなっていました。

このため、日本銀行による特別融資が行われましたので、一時をしのごうことができましたが、不況が続いていたために、手形の決済は進みませんでした。

政府は 1927（昭和 2）年になって、震

災手形の処理を議会にはかったところ、一部銀行の不良経営が暴かれ、これがもとで銀行の取付が起こり、たちまち全国的な金融恐慌へと発展してしまいました。

この金融恐慌は、蚕糸業界にも波及し糸価暴落を招いてしまいました。

同年 6～7 月になると、生糸を売り急ぐ製糸会社が多く、急激に出荷量が増加したため、糸価は大きく下がりだしました。特に、前年度の糸価が非常に悪かったことも大きく影響し、蚕糸業救済緊急対策が必要になり、8 月には蚕糸中央会臨時総会や全国蚕糸業者大会を開催して、帝国蚕糸株式会社（以下、帝蚕会社という）の設立を決議しました。

帝蚕会社は同年 10 月 29 日に設立され、直ちに糸価安定対策に着手し、横浜と神戸で、生糸の共同保管をはじめました。また、共同保管と併せて翌 1928（昭和 3）年 1 月から生産調整を行うことによって糸価は漸く安定を取り戻し、危機を脱出することができました。

2 昭和 4 年にはじまった世界経済恐慌

（1）経済恐慌の起こり

わが国の生糸輸出量は昭和期に入ると50万俵を突破し、1929（昭和4）年には第17表に示したように58万俵を越え、統計史上最高の輸出量を記録しましたが、この年の10月24日、ニューヨークのウォール街の株式市場で大暴落が起こり、米国はたちまちのうちに、経済恐慌に陥ってしまいました。

米国の商工業や貿易は停滞し、銀行や企業の倒産により失業者で溢れてしまいました。

米国は不況になってしまったため、ヨーロッパから米国資本を引上げてしまったので、米国資本に支えられていたヨーロッパ諸国は、瞬く間に大不況となり、全世界に経済恐慌が広まってしまいました。

（2）農村の疲弊と蚕糸業

この時期のわが国の生糸輸出は、第17表に示しましたように、米国一辺倒でしたので、いち早く経済恐慌の影響を受けてしまいました。

1929（昭和4）年9月の横浜生糸現物相場は第18表に示しましたように、100斤当たり1,330円でした。ところが世界恐慌がはじまると、11月には1,221円となり、翌1930（昭和5）年6月からは急落し795円、7月には705円となり、11月には500円台に暴落していきました。

1931（昭和6）年になっても第18表に示しましたように、生糸価格は低迷したままでしたので、当然のことながら繭価格も暴落してゆきました。第19表に示しまし

第17表 わが国の生糸輸出量

年次	総輸出量	うち米国輸出量 (総輸出量に対する割合)
昭和2年	521,773 俵	483,905 俵 (92.7%)
昭和3年	549,256	509,147 (92.7%)
昭和4年	580,950	563,068 (96.9%)
昭和5年	477,322	457,034 (95.7%)

出典：「昭和14年7月『蚕糸業要覧』農林省蚕糸局」より作表

第18表 横浜市場生糸現物相場
(標準格 対100斤)

	昭和3	昭和4	昭和5	昭和6
1月	1,311 円	1,356 円	1,174 円	708 円
3月	1,356	1,396	1,165	666
5月	1,336	1,341	1,100	531
7月	1,247	1,282	705	585
9月	1,312	1,330	648	573
11月	1,362	1,221	581	556

出典：入江魁著「蚕糸業更生の途」から抜粋作表

たように、1930（昭和5）年春蚕繭は前年の約半値に、1932（昭和7）年には約3分の1の値段にまで下落してゆき、長い不況によって農村は非常に疲弊していきました。

景気の回復は難しく、その後も繭価格は更に低落し、安値を更新していきました。

農村は繭価ばかりでなく、長期にわたる

第 19 表 世界経済恐慌前後の繭価格

	1 貫目 (3.75 kg) 当たり	
	春蚕白繭 (指数)	春蚕黄繭 (指数)
昭和 4 年	7 円 58 銭 (100)	7 円 41 銭 (100)
昭和 5 年	4・02 ((53)	3・98 (54)
昭和 6 年	3・13 (41)	3・07 (41)
昭和 7 年	2・39 (32)	2・32 (31)

出典：入江魁著「蚕糸業更生の途」から抜粋作表

各種農産物価格の暴落によって、公租公課の滞納、学用品の購入ができないなどによる師弟の義務教育への支障、中学校生徒の中途退学や授業料の未払い、製糸工場の休業による女工や都市労働者の失業と帰郷による扶養家族の増加、蚕種代・肥料代の未払い、医療費の不払い、電灯料の不払いによる送電中止、負債額の増大と償還不能など、農村の困窮は増大するばかりで、欠食児童や女子の身売りが続出する状態になってしまいました。

このような疲弊した農村を解消するために、農村救済請願運動が日増しに高まっていきました。

政府は 1932（昭和 7）年度から農村対策として公共土木工事を実施し、農村に現金収入の途を開きました。

しかし、折角の農村対策費も、年々増加する軍事費によって、農村救済事業は縮小され、農村に結成させた産業組合を中心に農民を結束させ、農民自身による自力更生

の途「農漁村経済更正運動」を強要することになっていきました。

わが国の予算額と横浜からの生糸輸出額とを比較してみると、昭和初期の世界恐慌以前と世界恐慌の影響を受け農村が疲弊してしまった時期では、第 20 表に示したように、生糸輸出額の国家予算に占める割合は非常に低落してしまいました。

殖産興業・富国強兵を旗印に国をあげて取組んできました蚕糸業でしたが、長期にわたる世界恐慌の激流になすすべもありませんでした。

繭や生糸を^{はぎし}歯軋りして増産しても、農家経営や製糸経営は、価格が年々大暴落するために焼け石に水で、窮地へと追込まれていくばかりでした。

第 20 表 世界経済恐慌前後の横浜港からの生糸輸出額の国家予算に占める割合

年 次	国家予算額 (千円)	生糸輸出額 (千円)	生糸輸出額の国 家予算額に 占める割合
昭和元	1,666,775	601,000	36.1 %
昭和 3	1,849,094	551,000	29.8
昭和 5	1,816,276	291,000	16.0
昭和 8	2,320,504	275,000	11.9
昭和 10	2,215,414	284,000	12.8
昭和 12	3,422,136	308,000	9.0

出典：「日本製糸協会 50 年史」から抜粋作表

こいずみ かつお
シルク博物館 元部長

イベント情報

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
第20回絹まつり	ジャパンシルクセンター恒例の夏季特別セール 多数の絹愛好家の皆様のご来場をお待ちしています。	平成23年7月4日(月)～ 7日(木) 初めの3日間10:00～18:30 最終日は10:00～17:00	会場:ジャパンシルクセンター 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館1階 主催:(社)日本絹業協会/ジャパン シルクセンター Tel:03-3215-1212 Fax:03-3214-1700
第21回企画展 ちりめん細工の美 ～四季の傘飾りを中心に～	ちりめん細工は着物の材料の縮緬を活用して作ります。 今回は四季の傘飾りを中心に、袋物や玩具、四季折々のつるし飾り、明治、大正時代の袋物など、ちりめん細工の華やかな世界を紹介します。 観覧料:一般400円(320円)、大高生250円(200円) ()内は20名以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその介護者1名様無料	平成23年5月28日(土)～7月 11日(月) AM9:30～PM5:00 休館日:毎週火曜日、但し火曜 が祝日の場合、翌日が休館	会場・お問合わせ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinuno sato.or.jp
絹の郷シンポジウム —絹産業遺産の価値と蚕糸業 の存続にむけて—	日本は、かつて世界有数の生糸輸出国でした。気がつけば養蚕と製糸は、日本からなくなりつつありますが、この国の英知と資本を結集してきた日本の蚕糸業と絹文化を次世代に引き継ぐための取り組みが各地で行われています。このシンポジウムは、これら取り組みを広く紹介するとともに、蚕糸業や絹文化の維持存続にむけた情報交換や蚕糸絹業関係者の交流の場として開催します。 招集者:蚕糸・絹業関係者を主体に広く公募 (定員100名、先着順)(7月10日まで申し込み) 参加費:15,000円(講演会・懇親会・宿泊・ツアー参加者) 13,000円(講演会・懇親会・宿泊参加者) 1,000円(講演会のみ参加者)	平成23年7月21日(木)～ 22日(金) 第1日目 13時より受付 「基調講演」東大名誉教授 石井 寛治氏 「特別講演」①(財)大日本蚕糸会 会頭 高木 賢氏 ②西陣織会館 副館長 松本 里花氏 ③群馬県農政部 絹主監 狩野 寿作氏 「施設見学」日本絹の里 「懇親会」於:ホテル天坊 第2日目 〈富岡製糸場と絹産業遺産 群を巡るツアー〉	会場:群馬県立日本絹の里 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 (懇親会・宿泊:伊香保温泉 「ホテル天坊」) 主催:絹の郷シンポジウム実行委 員会(群馬県、(財)県蚕糸振興協会) 後援:(財)大日本蚕糸会、日本絹業 協会、製糸技術研究会、NHK前橋 放送局、上毛新聞社 問合せ事務局 群馬県農政部蚕糸園芸課蚕糸係 Tel:027-226-3092 fax:027-243-7202 E-mail:sanshien@pref.gunma.jp
第8回「日本の絹展」 ～国産シルクをもっと暮らしに～	染織作家・工房等の和装、洋装の純国産絹製品を中心に、これに日本伝統文化を代表する、きもの、帯から斬新な洋装品までを一堂に展示し、その素晴らしさを紹介します。純国産絹製品コーナーを設け、国産繭、生糸から作られた純国産絹製品を展示します。 実演 蚕の飼育、座繰り繰糸 入場無料	平成23年7月26日(火)～8月 1日(月)	会場:東京・日本橋高島屋8階 主催:(社)日本絹業協会 Tel:03-3214-1691 後援:(財)大日本蚕糸会、(社)日本 絹人繊維物工業会、(財)伝統的工 芸品産業振興協会
体験教室「繭から織物まで」 繭から糸を作って織ってみませんか	群馬の繭(ぐんま200)から糸を作って、貴方だけのシルクストールを作りましょう。「日本の絹の里」では、体験者を2回にわたって募集しています。 第2回募集期間:9月1日～9月24日 応募方法:往復はがき(住所、氏名、電話)で応募 応募多数の場合抽選となります。 体験日数:1人8日間 体験料:8,000円	第1回日程 平成23年6月8日～7月7日 (募集は終了。) 第2回日程 平成23年10月5日～11月18日 AM10:00～PM4:00	会場・主催・お問合わせ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinuno sato.or.jp

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

平成 23 年 5 月 9 日現在

表示者登録番号	企 業 名	主な絹製品名
1	株式会社 千總	後染反物（訪問着、付下、色無地、振袖）、胴裏絹
2	株式会社 織匠田歌	先染反物、帯地（染帯）
3	有限会社 ミラノリブ	洋装品（婦人服（トップス、ボトム）、ソックス、ショール、ストール、スカーフ、ネクタイ、ニットタイ、ベスト）
4	株式会社 丸上	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、帯地（後染）
5	株式会社 坂本屋	後染反物（色無地）、胴裏絹（灰汁浸け加工）
6	有限会社 平原	後染反物（色無地、黒紋付）
7	株式会社 信盛堂	後染反物（色無地、黒紋付）
8	株式会社 きものアイ	後染反物（色無地）
9	株式会社 上庵	後染反物（色無地、黒紋付）
10	有限会社 樹	後染反物（色無地、黒紋付）
11	株式会社 銀座もとじ	白生地、後染反物、大島紬、先染反物（大島紬、結城紬）、染織作家製品、八掛、御召、帯地、帯締、羽織紐
12	河瀬満織物 株式会社	帯地（先染）
13	有限会社 織匠小平	帯地（先染）
14	門倉メリヤス 株式会社	洋装品（紳士靴下、ジャケット、セーター、カーディガン、パンツ、スカート、帽子）
15	株式会社 結華	後染反物（色無地、黒紋付）
16	有限会社 絹回廊	後染反物（色無地）
17	有限会社 琴路屋	後染反物（色無地、黒紋付）
18	有限会社 大善屋呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）、帯地（後染）
19	丸善本店	後染反物（色無地、黒紋付）
20	呉服のささき	後染反物（色無地、黒紋付）
21	日本蚕糸絹業開発協同組合	胴裏絹（ぐんま羽二重、ぐんまレビア、ぐんま 200（灰汁浸加工、トルマリン加工）五ツ星（ぐんま 200、よろこび、世紀 21））、長襦袢地、白生地（世紀 21）、八掛、比翼地、後染反物（作家もの、黒紋付）、うぶ着、裾紗、寝衣（おくるみ）、帯地（うるし糸 5% 以上）
22	宮階織物 株式会社	先染反物、後染反物
23	21 世紀の絹を考える会	帯地（草木染袋帯、唐織袋帯、先染袋帯）、後染反物（色無地、訪問着）
24	碓氷製糸農業協同組合	白生地、洋装品（マフラー）
25	丸幸織物 有限会社	白生地
26	織匠万勝	帯地、先染反物、後染反物
27	有限会社 織道楽塩野屋	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー・腹巻、手袋・靴下））
28	株式会社 丸万中尾	後染反物（江戸小紋、色無地、変一越、紋意匠、友禅）、帯地（後染）
29	株式会社 むらかね	後染反物（色無地、黒紋付）
30	株式会社 高島屋	後染反物（振袖、七五三着物、色無地）、長襦袢
31	株式会社 さが美	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
32	有限会社 まるけい	後染反物（色無地、黒紋付）
33	有限会社 特選呉服専門店後藤	後染反物（色無地、黒紋付）
34	株式会社 小いけ	後染反物（色無地、黒紋付）
35	株式会社 伊と幸	後染反物（色無地）、白生地（色無地）、胴裏絹、帯地（後染）
36	株式会社 四季のきもの おおにし	後染反物（色無地、黒紋付）帯地（後染）
37	株式会社 和幸	後染反物（色無地、黒紋付）
38	株式会社 榎屋高尾	帯地（袋帯）
39	株式会社 つるや	後染反物（色無地、黒紋付）
40	株式会社 越後屋	後染反物（色無地、黒紋付）
41	株式会社 小倉商店	先染反物（結城紬）、帯地（結城紬）、白生地（結城紬）
42	染織家 柳 崇	先染反物、帯地
43	染織家 児玉京子	先染反物
44	草木染工房山村	先染反物、帯地、ストール
45	手織り よおん	先染反物、帯地
46	祝嶺染織研究所	先染反物、帯地
47	株式会社 龍工房	和装小物（組紐）
48	からん工房	先染反物（紋紬、緋）、帯地
49	たわた工房	先染反物、帯地

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
50	山音 株式会社	後染反物（変三越、駒紵）
51	やまと 株式会社	後染反物
52	株式会社 御園織物	先染反物、帯地
53	桜井 株式会社	帯地（先染）
54	有栖川織物 有限会社	帯地（先染）
55	太田和 株式会社	先染反物（結城紵）、帯地（結城紵）
56	株式会社 岩田	帯地（先染）
57	有限会社 神原呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
58	浅山織物 株式会社	帯地（先染）
59	株式会社 やまと	帯地（先染）
60	田中種 株式会社	後染反物（小紋）
61	株式会社 京扇	後染反物（色無地）、胴裏絹（パールトーン加工）
62	株式会社 なごみや	後染反物（色無地、黒紋付）
63	丸池藤井 株式会社	後染反物（色無地）、八掛
64	久保商事 株式会社	和装小物（帯揚げ、半衿）
65	加賀グンゼ 株式会社	胴裏絹
66	千切屋 株式会社	後染反物（訪問着、付下）、帯地
67	荒川 株式会社	和装小物（帯締、帯揚げ）
68	第一衣料 株式会社	後染反物（色無地）
69	株式会社 紅輪	後染反物（色無地）
70	装いの道 株式会社	胴裏絹（トルマリン加工、灰汁浸け加工、ぐんま 200、ぐんまレピア、新小石丸）、 後染反物（本藍染、江戸更紗、京友禅）、白生地、帯地（後染）
71	株式会社 高橋屋	胴裏絹（灰汁浸け加工）
72	おお又 株式会社	胴裏絹（灰汁浸け加工）
73	株式会社 天野屋呉服店	胴裏絹ぐんま 200（灰汁浸け加工）、白生地
74	株式会社 きもの潮見	胴裏絹（パールトーン加工）
75	株式会社 とみひろ	胴裏絹ぐんま 200（酵素精練）
76	株式会社 細安	胴裏絹ぐんま 200（酵素精練）
77	京和きもの 株式会社	胴裏絹ぐんま 200（酵素精練）
78	株式会社 まるため	胴裏絹（トルマリン加工、パーリー加工）
79	株式会社 小川屋	胴裏絹ぐんま 200（トルマリン加工、灰汁浸け加工）
80	株式会社 エムラ	胴裏絹（酵素精練）
81	株式会社 荒井呉服店	胴裏絹（酵素精練）
82	株式会社 牛島屋	胴裏絹（酵素精練）
83	株式会社 谷呉服店	胴裏絹（酵素精練）
84	株式会社 登美屋	胴裏絹（パールトーン加工）
85	株式会社 川平屋	胴裏絹（パールトーン加工）
86	丸専第一衣料 株式会社（丸専きもの）	胴裏絹（パールトーン加工）
87	株式会社 大丸松坂屋百貨店	胴裏絹、比翼（振袖用）、長襦袢
88	西陣織工業組合	洋装品（マフラー）
89	株式会社 あきやま	先染反物、洋装品（ショール、マフラー）
90	藤井絞 株式会社	後染反物（色無地）
91	株式会社 川まん	白生地
92	有限会社 結城屋	白生地
93	株式会社 ウメショウ	白生地
94	株式会社 大徳	後染反物（色無地）
95	有限会社 カシワギ	寝具・寝装品（冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット）、洋装品（スカーフ、ストール、ネクタイ、シャツ、スーツ）
96	株式会社 北尾織物匠	帯地（袋帯、名古屋帯）
97	株式会社 平田組紐	帯締、帯締（金銀糸 5% 以上）、羽織紐（男物、女物）
98	株式会社 菱健	後染反物（色無地）
99	西野 株式会社	帯締、帯締（金銀糸 5% 以上）
100	京商 株式会社	後染反物（色無地、黒紋付）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
101	株式会社 猪井	後染反物
102	株式会社 たちばな	後染反物
103	株式会社 丸富美	後染反物 (色無地)
104	株式会社 絹もの屋まつなが	後染反物 (色無地)
105	株式会社 山正山崎	後染反物 (色無地)
106	有限会社 こくぶん呉服店	後染反物 (色無地)
107	株式会社 染織近藤	後染反物 (色無地)
108	株式会社 宮川呉服店	後染反物 (色無地)
109	株式会社 和らいふ	後染反物 (色無地)
110	有限会社 きものいなもと	後染反物 (色無地)
111	株式会社 世きね	後染反物
112	株式会社 西陣まいづる	帯地 (袋帯 (金銀系 5% 以上))
113	奥順 株式会社	先染反物 (結城紬)、帯 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	天蚕紬系ショール、天蚕ハイブリットショール
115	有限会社 金屋	後染反物 (色無地)
116	株式会社 鶴屋百貨店	胴裏絹 (酵素精練)
117	黄八丈めゆ工房	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	後染反物 (色無地)
119	合資会社 車屋呉服店	後染反物 (色無地)
120	宮崎 株式会社	結城紬
121	有限会社 内海呉服店きもの千歳屋	白生地
122	長島繊維 株式会社	後染反物 (色無地)
123	株式会社 しょう美	後染反物 (色無地)
124	合資会社 治田呉服店	後染反物 (色無地)
125	株式会社 丸十	後染反物 (小紋)
126	株式会社 竹田嘉兵衛商店	胴裏絹 (酵素精練)
127	有限会社 樋口屋京染店	白生地 (紋意匠)
128	大門屋	白生地 (牛首紬)、帯地 (牛首紬)
129	株式会社 加藤萬	和装小物 (帯揚、半衿)
130	株式会社 しゃらく	後染反物 (小紋)
131	合資会社 山中商店	後染反物 (小紋)
132	きもの処 あだち	後染反物 (小紋)
133	西川産業 株式会社	寝装寝具 (掛布団)
134	繭工房 華美	寝衣 (長肌着、短肌着)
135	株式会社 青山みとも	胴裏絹 (酵素精練)
136	株式会社 和想	後染反物 (小紋)
137	株式会社 高島屋呉服店	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	和装小物 (褌)、洋装品 (ネクタイ)
139	株式会社 丸年呉服店	後染反物 (小紋)
140	株式会社 染織館	後染反物 (小紋)
141	株式会社 京ろまん	後染反物 (小紋)
142	五嶋 株式会社	和装小物 (帯締)
143	株式会社 わふくや	長襦袢地
144	株式会社 布屋呉服店	胴裏絹 (トルマリン加工)
145	有限会社 明石屋	後染反物 (色無地)、帯地 (後染)
146	宮井 株式会社	和装小物 (風呂敷)
147	株式会社 ナカノ	後染反物 (小紋)
148	株式会社 芦田呉服店	後染反物 (色無地)

蚕糸関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館 “紫” (ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 (財) 日本きもの文化協会	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109-1	0532-52-5265
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上の大黒町 693 番地	075-431-0020
絹の白生地資料館	604-8176	京都府京都市中京区御池通室町東入る竜池町 448-2 伊と幸ビル	075-254-5884
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
その他関連施設			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344-1235	027-340-6060
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

蚕糸関係団体ホームページ一覧

平成 22 年 4 月 22 日現在

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp/>

【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会
(社) 日本絹業協会 (シヤパソルクセンタ-)
(社) 日本生糸問屋協会
(財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
京都和装産業振興財団
(財) 伝統的工芸品産業振興協会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>
<http://www.mawata.or.jp/>
<http://www.tanko.or.jp/>
<http://www.nishijin.or.jp/>
<http://www.tafts.or.jp/>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougei.or.jp/>

【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科
<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科
<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程
<http://www.bio.kit.ac.jp/>
(国) 京都工芸繊維大学
<http://www.kit.ac.jp/>
(国) 信州大学繊維学部
<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>
(国) 名古屋大学農学部
<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学講座
http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html
(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>
(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻
http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース
<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departement/bio/biofunc/index.html>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科
<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(独) 農業生物資源研究所
<http://www.nias.affrc.go.jp>
(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所
http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所
http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html
群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545
群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241
京都府織物・機械金属振興センター
<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>
京都市産業技術研究所繊維技術センター
<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

【学 会】

日本シルク学会
日本蚕糸学会

<http://www.silk.or.jp/ssstj/>
<http://www.soc.nii.ac.jp/~jsss2/>

【博物館】

(財) シルクセンタ-国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	43
(2) 養蚕業の概要	44
(3) 養蚕農家数の推移	45
(4) 収繭量の推移	46
(5) 都府県別養蚕農家数、桑使用面積、収繭量(2008年)	47
(6) 蚕品種別蚕種製造数量(2008年)	48
(7) 平成22年度蚕期別、都府県別繭生産量	49
(8) 平成22年度蚕期別、都府県農家戸数	50
(9) 生糸需給状況及び絹糸、絹織物の輸出入状況	51
(10) 生糸の織度別生産数量の推移	52
(11) 国産生糸価格実態	53
(12) 絹需給の推移(生糸量換算試算)	55
(13) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)	56
(14) 製糸工場の原料繭需給	57
(15) 製糸工場の操業状況	58
(16) 生糸在庫数量の内訳	59
(17) 蚕糸関係品目別輸入状況	60
(18) 生糸原産国別輸入状況	61
(19) 絹糸原産国別輸入状況	62
(20) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入量と単価	63
(21) 絹織物生産状況	64
(22) 丹後、長浜、西陣の絹織物生産状況	65
(23) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	66

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	67
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	68
(3) 中国省別家蚕繭生産数量、生糸生産数量、製糸工場数	69
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	70
(5) 中国のシルク類(生糸、絹糸、絹織物)の輸出状況	71
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年比増減率	72
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及び対前年増減率	73
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	74
(9) 中国省別従業員年平均賃金(2009年)	75
(10) ブラジルの繭、生糸の生産数量の推移	76
(11) ブラジルの繭、生糸・絹撚糸、絹織物の生産、輸入及び輸出状況	77

-資料・国内-

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次 (暦年) Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
1992 4年	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
1993 5年	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
1994 6年	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
1995 7年	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
1996 8年	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
1997 9年	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 10年	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 11年	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 12年	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 13年	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 14年	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 15年	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 16年	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 17年	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 18年	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 19年	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 20年	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 21年	915	327	357	1.2	7	60	33.6	11,472
2010 22年	753	265	352	0.9	7	49	34.9	11,659
前年対比 (%) 2010/09	82.3	81.0	98.6	75.0	100.0	81.7	103.9	101.6

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。
 ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会調査である。
 ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。
 ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(社)日本絹人織機物工業会調査である。
 平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のもの
 である。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕業の概要

Outline of Sericultural Industry

項 目 Item	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 収繭量	収繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 収繭量
年 次 Year	Farm house- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk-worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	Box of silkworm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
2008	1,021	20	10	11	36	382	197	10	374
対前年比 2008/07(%)	87.3	83.3	83.3	84.6	102.9	88.2	97.5	90.9	100.8

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

(3) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit：number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
対前年比 2008/07 (%)		87.3	88.3	84.4	86.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～)。

(4) 収繭量の推移
Cocoon Production

項目 Item 年次 Year	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量（年間）
	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕	Cocoon production per farm harvested area of mulberry
	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002	880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003	775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004	675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005	626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006	505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007	433	175	110	148	371	166	152	150	37
2008	382	147	96	139	374	158	157	162	39
対前年比 2008/07 (%)	88.2	84.0	87.3	93.9	100.8	95.2	103.3	108.0	105.4
構成比 (%)	100.0	38.5	25.1	36.4					

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004) .

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～) .

(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量（2008年）

Farm households raising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2008

項 目 Item 県 別 Each Prefecture	年 計 Annual total			春 繭 spring silk-worm		初秋繭 Early autumn silk-worm		晩秋繭 late autumn silk-worm	
	養 蚕 農家数	桑使用 面 積	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量
	Farm households raising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩 手 Iwate	29	30	11.0	22	2.8	21	4.0	26	4.2
宮 城 Miyagi	39	37	13.0	28	4.6	28	3.8	32	4.5
山 形 Yamagata	15	24	5.6	12	2.2	11	1.3	13	2.2
福 島 Fukushima	104	116	51.3	99	18.1	33	14.2	89	19.1
茨 城 Ibaragi	39	30	14.5	39	5.8	32	3.8	33	5.0
栃 木 Tochigi	50	86	39.4	48	14.8	35	7.4	46	17.2
群 馬 Gunma	417	471	161.2	383	63.2	249	40.9	370	57.2
埼 玉 Saitama	97	75	32.8	93	12.1	74	8.7	83	12.0
千 葉 Chiba	13	6	3.9	12	1.4	6	0.7	10	1.8
神奈川 Kanagawa	12		2.3	11	0.9	9	0.6	12	0.9
山 梨 Yamanashi	34	26	11.7	30	5.6	15	2.3	22	3.8
長 野 Nagano	46	32	13.2	42	5.4	37	3.4	35	4.4
岐 阜 Gifu	28	12	4.4	24	2.1	13	0.5	22	1.7
徳 島 Tokushima	23	10	4.6	22	2.4	13	1.0	16	1.2
愛 媛 Ehime	22	19	7.6	16	2.8	21	2.5	18	2.4
熊 本 Kumamoto	11	4	1.3	11	0.9	6	0.2	7	0.2
その他 Others	42	14	4.0	37	1.6	10	0.7	23	1.3
全国計 Total	1,021	992	381.8	929	146.7	613	96.0	857	139.1

資 料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008年)

Production by Sort of Silk-worm Eggs

	2007年夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		2008春蚕用 for spring rearing		2008夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		合 計 Total	
	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate
錦 秋 × 鐘 和	2,600	73.5			2,380	67.9	4,980	33.5
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号			2,390	30.6	360	10.3	2,750	18.5
ぐ ん ま × 200	302	8.5	1,575	20.2	210	6.0	2,087	14.1
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号			1,910	24.5			1,910	24.5
春 嶺 × 鐘 月			1,100	14.1			1,100	14.1
朝 ・ 日 × つくば・ね			100	1.3	500	14.3	600	4.0
新 小 石 丸	119	3.4	243	3.1			362	2.4
改 良 あ け ぼ の	180	5.1	80	1.0	50	1.4	310	2.1
世 ・ 紀 × 二 ・ 一	108	3.1	99	1.3			207	1.4
上 州 絹 星	101	2.9	101	1.3			202	1.4
ぐ ん ま 黄 金	14	0.4	125	1.6	3	0.1	142	1.0
芙 ・ 蓉 × つくば・ね	100	2.8					100	0.7
蚕 太			41	0.5			41	0.5
新 青 白	11	0.3	23	0.3			34	0.3
小 石 丸			24	0.3			24	0.3
合 計 Total	3,535	23.8	7,811	52.6	3,503	23.6	14,849	100.0

資 料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(7) 平成22年度蚕期別、都府県別繭生産量

Cocoon production by prefectures in 2010.

(全農集計に(財)大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センター集計分を加えた数値)

(単位: kg、%) 平成23年1月14日現在

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比
青森県	192.1	0.0	0.0%	153.1	137.4	89.7%	151.1	144.7	95.8%	496.3	282.1	56.8%
岩手県	2,526.0	2,017.6	79.9%	3,305.0	2,783.7	84.2%	3,694.6	3,049.7	82.5%	9,525.6	7,851.0	82.4%
宮城県	3,299.9	2,755.5	83.5%	2,692.3	2,335.9	86.8%	3,757.0	3,046.5	81.1%	9,749.2	8,137.9	83.5%
秋田県	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—
山形県	2,296.3	1,649.3	71.8%	1,128.3	761.7	67.5%	1,807.6	1,254.4	69.4%	5,232.2	3,665.4	70.1%
福島県	15,188.1	12,488.4	82.2%	14,670.8	11,946.4	81.4%	17,676.8	16,645.2	94.2%	47,535.7	41,080.0	86.4%
茨城県	4,814.0	3,672.0	76.3%	3,541.5	2,653.6	74.9%	4,242.9	3,181.4	75.0%	12,598.4	9,507.0	75.5%
栃木県	12,984.9	12,003.5	92.4%	6,901.5	4,465.3	64.7%	15,963.0	14,350.8	89.9%	35,849.4	30,819.6	86.0%
群馬県	55,127.7	49,138.1	89.1%	34,626.8	23,357.1	67.5%	49,254.0	38,871.7	78.9%	139,008.5	111,366.9	80.1%
埼玉県	9,778.9	9,018.9	92.2%	7,000.2	4,968.6	71.0%	8,475.9	6,903.5	81.4%	25,255.0	20,891.0	82.7%
千葉県	1,347.4	1,263.6	93.8%	976.8	671.7	68.8%	1,390.9	1,310.9	94.2%	3,715.1	3,246.2	87.4%
東京都	539.8	543.1	100.6%	0.0	0.0	—	440.0	342.3	77.8%	979.8	885.4	90.4%
神奈川県	863.9	884.8	102.4%	593.0	584.8	98.6%	735.4	637.9	86.7%	2,192.3	2,107.5	96.1%
山梨県	4,522.1	3,851.7	85.2%	1,824.1	1,170.0	64.1%	2,807.9	2,508.8	89.3%	9,154.1	7,530.5	82.3%
長野県	2,531.4	3,016.2	119.2%	3,116.3	2,212.9	71.0%	2,932.4	2,533.0	86.4%	8,580.1	7,762.1	90.5%
新潟県	0.0	0.0	—	102.3	46.6	—	44.7	51.9	116.1%	147.0	98.5	67.0%
岐阜県	1,978.6	1,351.3	68.3%	391.2	232.8	59.5%	1,170.6	687.4	58.7%	3,540.4	2,271.5	64.2%
静岡県	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—
愛知県	113.7	120.9	106.3%	0.0	0.0	—	34.9	0.0	—	148.6	120.9	81.4%
兵庫県	92.0	83.5	90.8%	83.6	80.0	95.7%	83.0	66.0	79.5%	258.6	229.5	88.7%
京都府	121.0	102.4	84.6%	74.1	97.5	131.6%	64.6	40.6	62.8%	259.7	240.5	92.6%
徳島県	1,674.6	0.0	0.0%	919.6	0.0	0.0%	1,148.6	0.0	0.0%	3,742.8	0.0	0.0%
愛媛県	2,340.2	2,172.3	92.8%	2,741.0	1,183.1	43.2%	1,937.2	1,671.9	86.3%	7,018.4	5,027.3	71.6%
高知県	344.5	280.4	81.4%	0.0	0.0	—	144.4	128.1	88.7%	488.9	408.5	83.6%
熊本県	817.3	543.4	66.5%	128.3	0.0	0.0%	237.5	271.6	114.4%	1,183.1	815.0	68.9%
宮崎県	165.6	136.6	—	0.0	0.0	—	131.8	62.7	—	297.4	199.3	67.0%
全国計	123,660.0	107,093.5	86.6%	84,969.8	59,689.1	70.2%	118,326.8	97,761.0	82.6%	326,956.6	264,543.6	80.9%

資料: 全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会調査

Source: National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The dainippon Silk Foundation

(8) 平成22年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures in 2010.

平成22年12月現在、全農調査（単位：戸、％）

都府県名	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比
青森県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	21	15	71.4	23	23	100.0	28	23	82.1	33	27	81.8
秋田県	0	0	—	0	0	—	0	0	—	0	0	—
宮城県	30	21	70.0	23	17	73.9	33	21	63.6	37	28	75.7
山形県	11	10	90.9	10	9	90.0	11	9	81.8	12	11	91.7
福島県	83	71	85.5	72	65	90.3	82	76	92.7	95	83	87.4
茨城県	33	18	54.5	28	20	71.4	24	20	83.3	33	37	112.1
栃木県	43	37	86.0	32	25	78.1	40	38	95.0	47	40	85.1
群馬県	336	288	85.7	290	216	74.5	330	278	84.2	373	310	83.1
埼玉県	72	63	87.5	57	48	84.2	68	59	86.8	79	68	86.1
千葉県	12	10	83.3	9	7	77.8	9	8	88.9	12	11	91.7
東京都	6	6	100.0	0	0	—	7	5	71.4	7	7	100.0
神奈川県	9	9	100.0	10	10	100.0	10	10	100.0	12	12	100.0
新潟県	15	0	—	2	1	50.0	3	1	33.3	15	1	6.7
山梨県	31	24	77.4	14	7	50.0	22	21	95.5	31	27	87.1
長野県	32	28	87.5	26	19	73.1	27	25	92.6	39	31	79.5
岐阜県	25	18	72.0	9	8	88.9	18	17	94.4	27	21	77.8
静岡県	1	0	0.0	1	0	—	1	0	—	1	0	—
愛知県	2	1	50.0	1	0	—	0	0	—	3	1	33.3
兵庫県	1	1	100.0	1	1	100.0	0	1	—	1	1	100.0
島根県	1	0	—	0	0	—	1	0	—	1	0	0.0
徳島県	16	0	—	12	0	0.0	13	0	—	16	0	—
愛媛県	17	17	100.0	19	15	78.9	17	19	111.8	22	19	86.4
高知県	4	4	100.0	0	0	—	3	3	100.0	5	5	100.0
熊本県	10	8	80.0	4	2	50.0	6	4	66.7	10	8	80.0
宮崎県	2	4	200.0	3	0	—	1	2	200.0	3	4	133.3
全国計	814	654	80.3	647	494	76.4	755	641	84.9	915	753	82.3

資料：全国農業協同組合連合会調査

(9) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,959	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,640	7,126
2009	1,152	12,085	—	13,766	4,055	16,647	388	8,996	6,269
2010	882	12,209	—	13,817	3,329	16,306	324	9,029	6,299
生糸年度 Silk Year									
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2009	1,029	12,857	—	14,383	3,661	17,481	366	8,639	6,182
2009 - 10	93	1,083	—	1,440	3,947	1,664	26	737	657
11	86	1,060	—	1,365	3,728	1,525	65	733	476
12	82	1,771	—	1,526	4,055	1,423	37	715	529
2010 - 1	71	1,061	—	1,239	3,948	1,683	21	781	444
2	78	722	—	930	3,818	1,435	4	563	485
3	87	1,182	—	1,437	3,650	1,051	13	600	618
4	78	612	—	1,111	3,229	1,318	9	710	557
5	77	1,532	—	1,177	3,661	1,192	20	821	511
6	77	919	—	1,115	3,542	1,325	19	745	528
7	76	645	—	1,042	3,221	1,573	54	783	551
8	61	985	—	1,063	3,204	1,303	19	873	482
9	60	1,174	—	1,181	3,257	1,235	32	750	582
10	71	1,070	—	798	3,600	1,254	74	659	555
11	72	1,082	—	1,187	3,567	1,453	36	879	480
12	74	1,223	—	1,535	3,329	1,485	23	836	506
2011 - 1	53	1,448	—	1,521	3,309	1,790	18	976	427
2	69	593	—	823	3,148	982	55	486	559
3	65	1,381	—	1,031	3,563	1,858	15	769	597

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(10) 生糸の織度別生産数量の推移
Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)
(Unit：Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	生 糸					
	計	18デニール以下	21デニール	27デニール	31デニール	その他
暦 年 Calendar Year	Total	17/19or 17/19 finer	20/22	26/28	30/32	Others
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
生糸年度						
Silk Year						
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2009	1,029	0	205	358	208	242
2010 - 2	78	0	10	42	8	17
3	87	0	19	28	27	13
4	78	—	31	13	9	25
5	77	—	9	34	9	25
6	77	—	7	36	—	34
7	76	—	11	32	2	31
8	61	—	12	24	1	24
9	60	—	29	9	7	15
10	71	—	12	27	5	27
11	72	1	6	31	—	34
12	74	0	7	24	8	35
2011 - 1	53	—	27	12	4	10
2	69	—	16	23	5	25
3	65	—	18	15	10	22

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～).

Remarks：Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(11) 国産生糸価格実態

Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位：円／k g
(Unit：Yen/k g)

Year & Month \ Size		21d	27d	31d	平均 Average
2005		3,870	3,173	3,107	3,383
2006		4,617	4,267	4,080	4,321
2007		3,961	3,625	3,573	3,720
2008		4,266	3,754	3,489	3,836
2009		4,171	3,598	3,136	3,635
2010		4,152	3,891	3,564	3,864
2009 —	10	4,149	3,450	3,195	3,598
	11	4,461	3,547	3,145	3,718
	12	3,980	3,581	3,055	3,539
2010 —	1	3,900	3,876	3,643	3,806
	2	4,200	3,682	3,281	3,721
	3	4,000	3,758	3,327	3,695
	4	4,026	3,750	3,100	3,625
	5	4,144	3,876	3,314	3,778
	6	4,192	3,867	3,729	3,929
	7	4,000	3,883	3,600	3,828
	8	4,256	3,893	3,814	3,988
	9	4,209	3,965	3,625	3,933
	10	4,231	4,106	3,833	4,057
	11	4,338	4,149	3,942	4,143
	12	4,329	4,336	4,002	4,222
2011 —	1	4,267	4,267	4,127	4,220
	2	4,763	4,737	5,400	4,967
	3	4,800	4,619	4,556	4,658

注：国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料：（社）日本生糸問屋協会

Remarks：Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source：Japan Raw Silk Dealer's Association

(参考) 中国生糸電子取引値段

China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸A類(21デニール5A)

Standard Raw Silk:21d 5A

上段単位:元/kg、下段:円/kg
(Upper Sec Unit:Yuan/kg,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
4月中	4月	元	355.92	355.92	356.40	356.40
		円	4,627	4,627	4,633	4,633
	5月	元	347.52	347.52	348.54	348.54
		円	4,518	4,518	4,531	4,531
	6月	元	340.08	340.08	341.88	341.88
		円	4,421	4,421	4,444	4,444
	7月	元	334.56	334.56	337.44	337.44
		円	4,349	4,349	4,387	4,387
	8月	元	334.14	334.14	337.14	337.14
		円	4,344	4,344	4,383	4,383
	9月	元	334.92	334.86	337.86	337.86
		円	4,354	4,353	4,392	4,392
	10月	元	341.10	341.10	347.10	347.10
		円	4,434	4,434	4,512	4,512
	11月	元	329.94	329.94	333.00	333.00
		円	4,289	4,289	4,329	4,329
	1月	元	329.94	329.94	333.00	333.00
		円	4,289	4,289	4,329	4,329
	3月	元	329.94	329.94	333.00	333.00
		円	4,289	4,289	4,329	4,329

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
5月中	5月	元	351.30	351.30	351.30	351.30
		円	4,567	4,567	4,567	4,567
	6月	元	348.12	348.12	348.36	348.36
		円	4,526	4,526	4,529	4,529
	7月	元	348.06	348.06	348.36	348.36
		円	4,525	4,525	4,529	4,529
	8月	元	348.06	348.06	348.36	348.36
		円	4,525	4,525	4,529	4,529
	9月	元	347.94	347.88	348.24	348.18
		円	4,523	4,522	4,527	4,526
	10月	元	348.06	348.06	348.36	348.36
		円	4,525	4,525	4,529	4,529
	11月	元	344.94	344.94	345.36	345.36
		円	4,484	4,484	4,490	4,490
	1月	元	344.94	344.94	345.36	345.36
		円	4,484	4,484	4,490	4,490
	3月	元	344.94	344.82	345.36	345.24
		円	4,484	4,483	4,490	4,488
	5月	元	345.60	345.60	345.60	345.60
		円	4,493	4,493	4,493	4,493

円換算レートは、1元＝13.00円である。

資料: 中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興)

Remarks: Rate 1Yuan = 13.00Yen

Source: China Silk Exchange (Zhejiang Sheng Jia Xing)

(12) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)
(Unit: 1,000Bales of
801)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					二 次 The Second	輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③		
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	計 ③ Total		生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	152	16	0	0	15	1	136	43
対前年比 2010/09(%)	95	75	100	102	100	100	107	102	80	100	—	—	100	100	78	91

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、(社)日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source：“Silk balance and price situation monthly”, “Trade Statistics” (arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Japan Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production Bureau, MAFF.

(13) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2005	2006	2007	2008	2009	2010	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		2.7	3.7	3.9	2.5	1.8	2.8	155.6	2.1
	女子用外衣類 Women's upper garments		59.9	56.6	50.0	40.2	37.1	38.4	103.5	28.9
	うちブラウス Blouse of the inside		3.7	3.5	3.0	3.4	2.8	2.4	85.7	1.8
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		5.8	5.7	2.2	1.6	1.1	1.0	90.9	0.8
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		16.1	15.1	15.0	16.3	13.5	13.9	103.0	10.5
	ハンカチ Handkerchief		1.9	1.0	0.5	0.5	0.4	0.3	75.0	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.4	2.7	3.0	2.9	2.5	2.2	88.0	1.7
	ネクタイ類 Ties		25.2	21.4	21.6	20.8	18.2	18.1	99.5	13.6
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		19.9	18.5	21.2	19.8	15.9	17.9	112.6	13.5
	その他の洋装類 Other western clothes		26.7	26.3	25.4	23.7	22.0	21.0	95.5	15.8
洋装類計 Western clothes subtotal			161.6	151.0	143.0	128.3	112.4	115.6	102.8	86.9
和装類計 Japanese clothes subtotal			17.4	18.4	15.5	14.7	15.9	14.5	91.2	10.9
	うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside		14.1	16.0	12.9	12.1	13.9	12.5	89.9	9.4
その他 Others			2.1	2.5	2.5	2.4	1.9	2.9	152.6	2.2
合 計 Total			181.0	171.9	161.0	145.4	130.2	133.0	102.2	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注）：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note :Total may not added up due to round off.

(14) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month 項 目 Item	総 計 Grand Total		
	受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year			
2005	866	830	589
2006	600	646	541
2007	548	581	505
2008	393	518	379
2009	308	385	313
2010	241	300	263
生糸年度 Silk Year			
2004	1, 056	1, 280	224
2005	839	673	390
2006	562	599	349
2007	502	583	266
2008	406	452	224
2009	324	337	209
Year Month			
2009 — 6	21	33	209
7	88	31	266
8	56	30	292
9	27	32	287
10	9	31	265
11	103	29	340
12	5	26	319
2010 — 1	16	24	312
2	△ 1	26	285
3	△ 1	28	257
4	1	23	235
5	0	26	209
6	54	30	233
7	14	23	224
8	70	19	275
9	0	22	253
10	80	24	309
11	8	24	293
12	1	31	263
2011 — 1	27	17	273
2	5	23	255
3	0	22	233

資 料：農林水産省生産局調査（～2010. 3）。中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010. 4～）。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010. 3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010. 4～).

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

(15) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

項 目 Item 年 月 Year & Month	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers	
		運転可能 Operable	運 転 Operating				
暦 年 Calendar Year							
2005	10	203	126	62	269	111	
2006	9	114	94	82	266	103	
2007	8	112	93	83	266	100	
2008	7	112	90	80	266	90	
2009	7	118	71	60	259	82	
2010	7	118	58	49	247	73	
2009 — 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	7	118	90	76	22	89	
	7	118	86	73	22	85	
	7	118	77	65	20	80	
	7	118	77	65	23	83	
	7	118	72	61	23	83	
	7	118	75	64	20	82	
	7	118	77	65	22	82	
	7	118	77	65	24	82	
	7	118	74	63	21	81	
	7	118	71	60	21	82	
	2010 — 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 2011 — 1 2 3	7	118	79	67	20	81
		7	118	77	65	21	80
7		118	80	68	22	80	
7		118	79	67	20	90	
7		118	75	64	21	91	
7		118	74	63	22	84	
7		118	75	64	17	84	
7		118	76	64	18	79	
7		118	72	61	22	79	
7		118	76	64	22	79	
7		118	73	62	21	79	
7		118	58	49	21	73	
7	118	58	49	20	67		
7	118	58	49	21	63		
7	118	60	51	23	62		

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～)。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～).

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(16) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item 年月 Year & Month	総計 Grand Total	一般在庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受入数 Accepts	引渡数 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	0	2,354	656			
生糸年度 Silk Year									
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,158	4,158	376	15	3,266	515			
2009	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
2009 — 12	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010 — 1	3,948	3,948	355	10	2,995	588			
2	3,818	3,818	351	10	2,961	496			
3	3,650	3,650	342	0	2,863	445			
4	3,229	3,229	355	0	2,478	396			
5	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
6	3,542	3,542	343	0	2,644	555			
7	3,221	3,221	334	0	2,441	446			
8	3,204	3,204	340	0	2,365	499			
9	3,257	3,257	331	0	2,422	504			
10	3,600	3,600	328	0	2,646	626			
11	3,567	3,567	331	0	2,628	608			
12	3,329	3,329	319	0	2,354	656			
2011 — 1	3,309	3,309	292	0	2,388	629			
2	3,148	3,148	284	0	2,219	645			
3	3,563	3,563	288	0	2,511	764			

資料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3)。

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～)。

(17) 蚕糸関係品目別輸入状況（平成18年～23年3月）

Breakdown of Silk-Related Products Imports (2006～Mar. 2011)

	単位 Unit	平成23年(2011)		平成22年 (2010)	平成21年 (2009)	平成20年 (2008)	平成19年 (2007)	平成18年 (2006)	22年/21年 2010/09 (%)
		(3月) Mar	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	1,381	3,422	12,209	12,085	15,242	12,858	21,148	101.0
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1,858	4,630	16,306	16,647	22,636	19,439	31,524	98.0
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	—	—	82	149	317	333	430	55.0
繭 Cocoon	kg	2,000	2,000	13,158	9,800	4,000	13,750	18,565	134.3
真綿 Floss Silk	kg	—	—	—	—	29,071	28,660	34,176	—
ペニール Peigne	kg	—	—	—	35,331	2,770	6,336	19,760	—
くず繭 Waste Cocoon	kg	—	702	9,395	33,450	23,770	17,184	1,020	28.1
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	—	—	202,220	242,082	234,894	—
その他の絹くず Other Silk Waste	kg	12,756	29,293	134,852	103,122	193,125	238,507	255,951	130.8
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	12,756	29,995	144,247	171,903	450,956	532,769	545,801	83.9
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	44,387	121,359	451,219	335,710	526,662	608,270	756,065	134.4
絹紡紬糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	9,999	25,175	104,374	97,554	143,585	117,265	208,913	107.0
絹織物 Silk Fabrics	m ²	769,287	2,231,589	9,029,003	8,996,010	11,540,335	11,355,333	12,989,059	100.4

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(18) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位 : 60 k g 俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国名 Country 年 月 Year & Month		計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他
		Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others
暦年 Calendar Year							
2008		15,242 (137)	11,024 (102)	4,101 (35)	—	117 (—)	
2009		12,085 (72)	8,169 (51)	3,855 (21)	11 (—)	50 (—)	—
2010		12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	0	77	—
生糸年度 Silk Year							
2007		16,185	11,410	4,607	—	168	—
2008		12,138 (103)	8,572 (89)	3,435 (14)	11	122	—
2009		12,845 (66)	8,787 (38)	3,986 (28)	—	73	—
2009 — 4		529 (18)	333 (10)	181 (8)	11	5	—
5		1,379 (5)	859 (5)	520	—	—	—
6		800	636	162	—	2	—
7		927	842	79	—	6	—
8		921 (10)	819 (10)	96	—	7	—
9		1,174	890	284	—	—	—
10		1,083 (15)	776 (2)	299 (13)	—	7	—
11		1,060 (16)	500 (16)	553	—	7	—
12		1,771	807	954	—	10	—
2010 — 1		1,061	857	205	—	—	—
2		722	490	229	—	3	—
3		1,182 (5)	639	512 (5)	—	31	—
4		612	449	163	—	—	—
5		1,532 (20)	1,082 (10)	450 (10)	—	—	—
6		919 (4)	681	237 (4)	—	1	—
7		645 (5)	396 (5)	246	—	2	—
8		985 (15)	790 (15)	176	—	19	—
9		1,174	892	282	—	—	—
10		1,070 (16)	670 (10)	400 (6)	—	—	—
11		1,082	843	234	1	5	—
12		1,223	651	572	—	—	—
2011 — 1		1,448 (13)	1,168 (10)	274 (3)	—	6	—
2		593	521	72	—	—	—
3		1,381 (15)	1,052 (10)	321 (5)	—	6	—

資 料 : 財務省関税局調査

備 考 : 1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。
2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.
2. Figures in parenthesis indicate the break down for douppion silk imports.

(19) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位 : 60kg俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国名 年月 Country Year & Month	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year								
2008	22,636	30	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009	16,647	—	9,655	5,096	10	—	1,742	144
2010	16,306	—	9,675	4,694	16	—	1,716	205
生糸年度 Silk Year								
2008	18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64
2009	17,481	—	9,940	5,065	7	—	1,953	186
2009 — 3	1,213	—	734	300	3	—	176	—
4	1,459	—	959	317	—	—	148	35
5	1,092	—	672	362	2	—	57	—
6	1,363	—	768	489	—	—	106	—
7	1,656	—	1,046	438	—	—	171	—
8	1,646	—	842	664	—	—	140	—
9	1,525	—	911	447	4	—	106	58
10	1,664	—	808	563	0	—	293	—
11	1,525	—	800	604	—	—	120	0
12	1,423	—	1,021	170	—	—	202	30
2010 — 1	1,683	—	1,086	478	—	—	118	1
2	1,435	—	713	491	2	—	230	—
3	1,051	—	506	343	1	—	132	68
4	1,318	—	747	363	—	—	178	29
5	1,192	—	692	342	—	—	157	—
6	1,325	—	889	296	—	—	135	4
7	1,573	—	1,026	352	—	—	144	50
8	1,303	—	784	382	—	—	137	0
9	1,235	—	811	302	—	—	121	1
10	1,254	—	754	366	2	—	132	—
11	1,453	—	790	526	—	—	81	56
12	1,485	—	877	465	1	—	141	1
2011 — 1	1,790	—	1,108	543	—	—	139	—
2	982	—	559	312	—	—	110	—
3	1,858	—	1,244	467	2	—	134	10

資 料 : 財務省関税局調査。

備 考 : kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(20) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵, Kg/円

項目 Item 年 月 Year & Month	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦 年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,513	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,169	2,740	3,855	3,059	9,655	2,840	1,742	3,611	5,096	3,034
2010	8,411	3,667	3,705	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,694	3,411
2010 - 3	639	3,395	512	4,702	506	3,344	132	4,062	343	3,176
4	449	3,543	163	3,809	747	3,667	178	4,253	363	3,472
5	1,082	3,540	450	3,693	692	3,717	157	4,170	342	3,424
6	681	3,639	237	3,877	889	3,679	135	4,208	296	3,408
7	396	3,572	246	3,811	1,026	3,729	144	4,221	352	3,468
8	790	3,599	176	3,632	784	3,747	137	4,048	382	3,376
9	892	3,696	282	3,866	811	3,760	121	4,405	302	3,517
10	670	3,834	400	3,620	754	3,928	132	4,317	366	3,507
11	843	3,983	234	3,650	790	3,984	81	4,161	526	3,478
12	651	4,225	572	3,906	877	4,277	141	4,503	465	3,918
2011 - 1	1,168	4,370	274	4,055	1,108	4,372	139	4,519	543	3,901
2	521	4,626	72	4,293	559	4,578	110	4,465	312	3,890
3	1,052	4,729	321	4,196	1,244	4,723	134	4,882	467	4,031

資 料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F 価格である。

Source：The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks：A unit price is CIF price.

(21) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
2005	19,816	6,669	2,965	1,903	1,801	10,248	6,930	3,318	2,849
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	11,472	3,733	1,445	1,205	1,083	6,094	3,966	2,128	1,645
2010	11,659	3,790	1,471	1,224	1,095	6,201	4,034	2,167	1,668
2010 — 3	965	314	122	101	91	513	334	179	138
4	997	324	126	105	94	530	345	185	143
5	980	319	124	103	92	521	339	182	140
6	1,103	358	139	116	104	587	382	205	158
7	1,014	330	128	106	95	539	351	188	145
8	901	293	114	95	85	479	312	167	129
9	962	313	121	101	90	511	333	178	138
10	995	323	125	104	93	530	344	186	142
11	1,004	326	127	105	94	534	347	187	144
12	966	314	122	101	91	514	334	180	138
2011 — 1	814	311	196	15	99	347	142	205	156
2	873	333	210	16	106	372	152	219	168
3	902	345	217	16	110	384	157	226	173

資 料：(社)日本絹人織織物工業会。

備 考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source：Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks：Spun and mixed fabrics included.

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(22) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項 目 Item 年 月 Year & Month	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2005	19,816	90.3	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,507	90.6	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	88,401	90.9	867,490	88.7
2009	11,472	81.7	503,365	76.6	73,681	83.3	746,538	86.1
2010	11,659	101.6	515,721	102.5	80,701	109.5	859,244	115.1
2008 — 5	1,201	96.5	55,793	110.6	6,381	82.2	67,669	95.0
6	1,263	92.2	65,862	95.4	9,352	130.5	57,541	68.1
7	1,184	91.4	53,644	86.7	7,548	104.3	84,867	95.5
8	1,028	91.2	46,770	97.9	5,302	87.2	66,629	74.4
9	1,156	86.7	54,846	79.4	7,416	87.8	100,298	142.6
10	1,123	86.9	49,981	85.2	7,817	83.2	62,123	101.9
11	1,127	85.7	53,365	84.4	7,973	97.1	69,923	89.7
12	1,078	83.2	49,096	79.0	5,890	72.7	55,604	82.4
2009 — 1	876	79.5	27,931	71.7	5,428	72.3	70,227	123.9
2	1,033	79.5	48,523	73.7	5,994	82.2	80,196	85.9
3	999	77.9	43,968	67.2	6,664	83.7	70,816	90.2
4	987	82.2	43,957	76.6	6,766	85.0	70,733	95.1
5	935	77.8	39,715	71.2	5,162	80.9	49,997	86.9
6	1,009	79.9	45,800	69.5	6,492	69.4	59,496	103.4
7	958	80.9	40,343	75.2	6,448	85.4	62,673	73.8
8	853	83.0	37,632	80.5	5,642	106.4	42,766	64.2
9	963	83.3	44,281	80.7	6,077	81.9	53,568	53.4
10	944	84.1	40,356	80.7	6,027	77.1	57,802	93.0
11	978	86.8	47,618	89.2	6,920	86.8	66,104	94.5
12	937	86.9	43,241	88.1	6,061	102.9	61,841	111.2
2010 — 1	834	95.2	31,911	114.2	5,989	110.3	64,521	91.9
2	939	90.9	46,194	95.2	6,366	106.2	68,288	85.2
3	965	96.6	43,859	99.8	7,813	117.2	75,704	106.9
4	997	101.0	44,458	101.1	7,506	110.9	86,802	122.7
5	981	104.9	42,508	107.0	6,642	128.7	70,454	140.9
6	1,103	109.3	44,160	96.4	7,316	112.7	72,395	121.7
7	1,014	105.8	44,163	109.5	7,146	110.8	63,858	101.9
8	901	105.6	39,856	105.9	7,022	124.4	60,415	141.3
9	962	99.9	41,925	94.7	6,925	114.0	64,965	121.3
10	995	105.4	46,366	114.9	5,807	96.3	78,060	135.0
11	1,004	102.7	45,283	95.1	6,553	94.7	68,940	104.3
12	966	103.1	45,018	104.1	5,616	92.7	68,067	110.1
2011 — 1	814	97.6	32,734	102.6	5,452	91.0	61,923	96.0
2	873	93.0	42,369	91.7	5,799	91.1	60,552	88.7
3	902	93.5	41,784	95.3	6,688	85.6	56,128	74.1
4			44,774	100.7	6,276	83.6		

資 料：絹織物生産数量は(社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸問屋協会調査。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash livings are included in sash production.

(23) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年 Calendar Year												
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 0.2	11,994	▲ 3.3	261	▲ 12.0	4,622	▲ 4.2	2,468	▲ 4.0	1,098	▲ 2.9
2010	290,244	0.3	11,499	▲ 2.9	245	▲ 6.0	4,459	▲ 2.3	2,353	▲ 3.8	1,069	▲ 1.0
2008 - 7	298,366	▲ 0.5	13,702	3.2	341	▲ 13.1	4,634	▲ 1.5	3,637	9.1	1,346	9.7
8	291,154	▲ 4.0	9,945	▲ 0.5	769	48.6	3,124	▲ 1.5	2,259	▲ 0.7	1,060	4.1
2008 - 9	281,433	▲ 2.3	10,021	1.2	221	10.9	3,667	1.6	2,094	▲ 0.6	904	▲ 7.9
10	291,504	▲ 3.8	12,755	▲ 6.0	393	61.9	4,807	▲ 8.5	2,697	▲ 8.2	1,120	▲ 14.6
11	284,762	▲ 0.5	14,547	1.3	158	▲ 68.5	6,205	7.3	2,646	▲ 1.9	1,490	2.1
12	336,976	▲ 4.6	13,644	▲ 8.4	346	168.6	5,429	▲ 12.2	2,449	▲ 14.7	1,558	▲ 0.5
2009 - 1	291,440	▲ 5.9	13,679	▲ 1.4	337	▲ 32.6	6,371	4.0	2,528	▲ 7.1	1,034	▲ 4.4
2	266,044	▲ 3.5	8,879	▲ 12.9	165	▲ 45.8	3,883	▲ 10.7	1,669	▲ 9.5	704	▲ 21.4
3	310,680	▲ 0.4	13,466	▲ 3.6	526	314.6	6,307	▲ 1.4	2,027	▲ 16.8	849	▲ 11.4
4	306,340	▲ 1.3	12,533	▲ 1.6	360	324.5	4,569	▲ 7.4	2,451	▲ 1.9	976	▲ 1.0
5	285,530	0.3	12,623	▲ 1.0	181	▲ 13.2	4,451	▲ 3.6	2,755	▲ 2.7	1,060	▲ 6.0
6	277,237	0.2	11,815	▲ 0.3	117	▲ 3.5	3,929	▲ 6.0	2,935	0.9	1,143	5.5
7	285,078	▲ 2.0	11,873	▲ 12.7	209	▲ 38.1	3,871	▲ 15.6	3,029	▲ 15.8	1,299	▲ 3.3
8	290,972	2.6	8,882	▲ 10.2	368	▲ 51.7	2,820	▲ 9.2	2,185	▲ 2.2	907	▲ 14.1
9	277,110	1.0	9,651	▲ 2.5	215	▲ 2.4	3,273	▲ 8.4	2,141	2.1	932	3.3
10	287,789	1.6	12,287	▲ 2.3	75	▲ 80.8	4,685	0.1	2,705	1.0	1,220	9.3
11	284,740	2.2	13,698	▲ 4.3	236	50.0	5,558	▲ 7.8	2,512	▲ 4.3	1,392	▲ 6.0
12	337,887	2.1	14,546	8.7	344	▲ 0.3	5,750	9.2	2,678	11.0	1,656	7.7
2010 - 1	291,918	1.7	12,997	▲ 3.7	102	▲ 69.3	5,969	▲ 3.4	2,383	▲ 6.2	1,045	2.4
2	261,918	▲ 0.5	9,325	6.1	440	167.8	4,012	4.9	1,678	0.1	717	3.4
3	319,991	4.4	13,147	▲ 1.1	235	▲ 55.3	6,289	1.3	2,116	4.9	860	3.2
4	299,996	▲ 0.7	10,703	▲ 13.1	116	▲ 67.9	4,110	▲ 8.2	2,123	▲ 12.3	817	▲ 14.7
5	280,714	▲ 0.7	12,049	▲ 2.7	124	▲ 31.6	4,097	▲ 5.7	2,834	4.1	1,079	4.0
6	276,494	0.5	11,514	▲ 0.9	77	▲ 34.5	3,902	1.2	2,746	▲ 4.8	1,112	▲ 0.9
7	285,274	1.1	12,273	4.4	755	261.6	3,878	1.2	3,022	0.3	1,266	▲ 0.8
8	293,361	1.7	8,718	▲ 1.0	174	▲ 52.6	2,946	5.0	2,094	▲ 3.3	960	7.5
9	275,367	0.0	9,165	▲ 4.1	395	84.4	3,074	▲ 5.9	1,915	▲ 9.4	916	0.4
10	287,433	▲ 0.4	12,763	5.1	238	215.7	5,000	7.5	2,642	▲ 0.9	1,305	9.3
11	284,212	▲ 0.4	12,530	▲ 7.8	221	▲ 6.7	5,025	▲ 9.6	2,385	▲ 3.4	1,310	▲ 5.1
12	327,006	▲ 3.3	12,802	▲ 11.3	69	▲ 79.9	5,205	▲ 9.5	2,280	▲ 13.2	1,435	▲ 12.8
2011 - 1	289,191	▲ 1.0	12,521	▲ 3.7	120	17.2	5,405	▲ 10.8	2,749	6.1	1,135	9.3
2	260,793	▲ 0.2	8,720	▲ 6.7	282	▲ 36.0	3,802	▲ 6.9	1,445	▲ 12.3	735	2.5
3	293,181	▲ 8.5	11,075	▲ 15.6	452	92.5	5,024	▲ 20.6	1,783	▲ 14.8	786	▲ 8.7

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source: Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks: Clothing & footwear includes Japanese clothing, clothing, shirts & sweaters and other items.

Year value is mean of the each month.

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2004年	2005年	2006年
		トン	トン	トン
日本	Japan	683	626	505
中国	China	547,091	621,461	739,715
インド	India	120,000	126,000	135,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,005	7,146	8,051
タイ	Thailand	10,650	10,650	10,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,200	2,543	2,104
トルコ	Turkey	169	170	350
ブルガリア	Bulgaria	20	42	65
ギリシャ	Greece	70	70	100
フィリピン	Philippines	22	14.4	16
シリア	Syria	11.5	5.5	3
主要国の計	Total	730,922	809,728	937,009

区 分		2007年	2008年	2009年
		トン	トン	トン
日本	Japan	433	382	327
中国	China	779,261	683,387	575,299
インド	India	150,000	133,316	131,661
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,617	6,266	4,835
タイ	Thailand	1,785	7,700	4,655
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	25,760	25,896
イラン	Iran	1,665	1,185	1,185
トルコ	Turkey	130	126	140
ブルガリア	Bulgaria	55	48	51
ギリシャ	Greece	104	0	100
フィリピン	Philippines	9	6	4
シリア	Syria	2.5	3	4
主要国の計	Total	983,062	879,179	765,157

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナムは、2004年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSED).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2004年		2005年		2006年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	263	4,400	151	2,500	119	2,000
中国	China	80,231	1,337,200	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000
インド	India	14,620	243,700	15,445	257,400	16,525	275,400
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,512	25,200	1,285	21,400	1,387	23,100
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,420	23,700	1,080	18,000
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	500	8,300	395	6,600	324	5,400
トルコ	Turkey	28	500	30	500	25	400
ブルガリア	Bulgaria	3	100	6	100	5	100
ギリシャ	Greece	4.5	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	3	100	1.1	0	1.6	0
シリア	Syria	1.5	0	0.7	0	0.5	0
主要国の計	Total	101,936	1,699,100	109,849	1,830,800	115,926	1,932,300

区 分		2007年		2008年		2009年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	105	1,800	95	1,600	69	1,200
中国	China	108,420	1,807,000	98,620	1,643,700	92,455	1,540,900
インド	India	18,320	305,300	18,370	306,200	19,600	326,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,220	20,300	1,177	19,600	811	13,500
タイ	Thailand	760	12,700	1,100	18,300	665	11,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,417	23,600	2,447	40,800
イラン	Iran	253	4,200	180	3,000	180	3,000
トルコ	Turkey	20	300	15	300	20	300
ブルガリア	Bulgaria	7.5	100	7.5	100	6.3	100
ギリシャ	Greece	0	0	0	0	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0	0	0.4	0	0.6	0
主要国の計	Total	132,457	2,207,500	123,233	2,053,900	118,509	1,975,200

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナムは、2004年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSED).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(3)中国省別家蚕繭生産量・生糸生産量・製糸工場数

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2007	2008	対前年比 2008/07	2007	2008	対前年比 2008/07
山 西	Shanxi	5,800	6,033	104	130	64	49
河 北	Hebei	1,020	1,000	-	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	104,119	95,476	92	22,000	20,450	93
浙 江	Zhejiang	83,900	64,319	77	18,500	17,950	97
安 徽	Anhui	38,100	33,400	88	5,200	5,500	106
江 西	Jiangxi	12,400	10,015	81	2,500	2,570	103
山 東	Shandong	40,500	34,530	85	7,200	5,530	77
河 南	Henan	13,700	11,641	85	3,300	2,800	85
湖 北	Hubei	15,800	21,200	134	470	332	71
湖 南	Hunan	4,200	4,300	102	60	58	97
広 東	Guangdong	81,127	70,693	87	1,400	1,513	108
広 西	Guangxi	205,163	170,900	83	11,000	14,069	128
重 慶	Chongqing	24,800	22,110	89	7,800	5,497	70
四 川	Sichuan	83,700	68,576	82	24,700	16,400	66
貴 州	Guizhou	2,532	3,626	143	-	23	-
雲 南	Yunnan	36,600	40,348	110	1,640	2,871	175
陝 西	Shaanxi	24,600	23,800	97	2,300	2,868	125
甘 肅	Gansu	500	420	84	-	-	-
寧 夏	Ningxia	500	520	104	50	30	60
新 疆	Xinjiang	200	480	240	-	30	-
内 蒙 古	Inner Mongolia	-	-	-	60	65	108.33
合 計	Total	779,261	683,387	88	108,310	98,620	91

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2006	2008	前年比 2008/06
702	682	97

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1997年～2008年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	前年比 08/07(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	100.0
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	100.0
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai								0.0	0.0				
江 蘇	Jiangsu	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	91.3
浙 江	Zhejiang	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	76.2
安 徽	Anhui	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	86.8
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	83.3
山 東	Shandong	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	87.5
河 南	Henan	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	85.7
湖 北	Hubei	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	131.3
湖 南	Hunan	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	87.7
広 西	Guangxi	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	83.4
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing		2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	88.0
四 川	Sichuan	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	82.1
貴 州	Guizhou	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	200.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	108.1
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	96.0
甘 肅	Gansu								0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia								0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	
合 計	Total	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	87.7

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2010年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	5,316,040	80.92	210.292	124.18
2 ベトナム	Vietnam	687,800	183.10	27.625	256.92
3 韓国	South Korea	524,545	97.95	21.201	138.58
4 ルーマニア	Romania	508,559	198.80	20.229	281.97
5 日本	Japan	483,704	107.01	20.302	155.15
6 イタリア	Italy	347,761	135.80	14.853	195.92
7 バングラデシュ	Bangladesh	166,676	109.79	6.230	164.02
8 パキスタン	Pakistan	85,423	48.10	3.128	68.19
9 ミャンマー	Myanmar	78,785	119.99	3.028	189.93
10 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	66,758	229.30	2.502	279.12
11 その他	Others	242,599	59.43	9.458	100.53
合計	Total	8,508,650	92.21	338.848	139.15

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2011年1月～4月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 インド	India	1,412,008	85.66	76.223	134.94
2 ベトナム	Vietnam	185,152	85.97	9.546	131.59
3 ルーマニア	Romania	181,288	162.02	9.383	235.46
4 日本	Japan	176,778	137.88	9.872	208.51
5 韓国	South Korea	175,382	107.82	9.517	167.61
6 イタリア	Italy	107,042	130.73	5.883	196.42
7 バングラデシュ	Bangladesh	22,230	29.09	1.191	46.35
8 ドイツ	Germany	20,543	140.92	1.132	213.42
9 ミャンマー	Myanmar	20,332	52.94	1.103	88.38
10 チュニジア	Tunisia	16,128	98.67	0.893	154.67
11 その他	Others	59,819	43.24	3.269	71.05
合計	Total	2,376,702	90.28	128.012	141.20

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	1,697,386	68.52	68.000	106.57
2 日本	Japan	632,473	106.00	26.847	146.56
3 イタリア	Italy	534,502	129.60	22.832	182.77
4 パキスタン	Pakistan	476,671	102.63	19.600	148.45
5 ドイツ	Germany	202,213	68.30	7.535	80.81
6 韓国	South Korea	189,531	93.82	7.847	132.48
7 タイ	Thailand	150,802	171.12	6.384	241.18
8 シリア	Syria	87,563	516.50	0.376	564.61
9 インドネシア	Indonesia	86,871	110.16	3.364	160.01
10 ベトナム	Vietnam	55,208	97.92	2.225	157.13
11 その他	Others	258,693	108.99	10.760	155.24
合計	Total	4,371,913	88.74	175.770	129.03

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 インド	India	351,626	79.70	19.073	123.18
2 日本	Japan	250,325	131.89	13.924	185.53
3 イタリア	Italy	217,388	128.48	12.184	192.85
4 パキスタン	Pakistan	75,313	42.01	4.178	62.80
5 タイ	Thailand	58,930	160.65	3.389	238.44
6 ドイツ	Germany	50,957	70.70	2.389	94.12
7 韓国	South Korea	47,377	97.28	2.542	139.23
8 マレーシア	Malaysia	28,053	32,619.77	1.462	57,159.27
9 インドネシア	Indonesia	16,871	59.51	0.873	87.16
10 ベトナム	Vietnam	11,673	133.96	0.568	185.43
11 その他	Others	48,307	67.92	2.353	92.46
合計	Total	1,156,820	92.90	62.935	138.01

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	56,715,405	86.28	194.688	121.16
2 パキスタン	Pakistan	52,802,642	116.96	133.167	149.68
3 イタリア	Italy	49,555,469	136.42	173.431	164.48
4 香港	Hong Kong	17,082,170	99.57	90.484	120.59
5 韓国	South Korea	15,521,720	91.28	70.217	110.96
6 日本	Japan	11,648,919	102.17	39.907	133.54
7 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	8,469,624	92.62	31.330	109.83
8 マレーシア	Malaysia	7,832,855	85.90	38.012	125.04
9 シンガポール	Singapore	7,482,141	72.13	30.155	82.34
10 アメリカ	United States	6,024,523	110.33	35.272	117.48
11 その他	Others	40,723,405	115.50	155.883	133.41
合計	Total	273,858,873	104.48	992.546	129.62

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 イタリア	Italy	14,742,246	87.57	69.189	132.87
2 パキスタン	Pakistan	11,330,547	101.84	36.516	134.65
3 インド	India	10,834,377	63.62	47.086	94.46
4 韓国	South Korea	4,477,158	82.80	25.908	116.21
5 香港	Hong Kong	4,116,639	74.22	26.486	102.31
6 日本	Japan	3,932,163	110.09	16.408	147.76
7 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	2,504,694	94.42	11.008	128.37
8 マレーシア	Malaysia	2,428,090	106.70	14.817	160.21
9 シンガポール	Singapore	2,059,311	75.49	9.101	78.80
10 トルコ	Turkey	1,972,704	100.82	9.751	134.04
11 その他	Others	12,644,701	96.67	64.402	128.51
合計	Total	71,042,630	86.42	330.672	120.21

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額（億元） Wage Bill (100million yuan)				対前年増減率（%） Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	8,255.8	6,173	1,210.6	672.7	21.8	17.4	15.6	42.2
1996年	9,249.4	6,893	1,269.4	801.7	12.0	11.7	4.9	19.2
1997年	9,602.4	7,324	1,283.9	994.5	3.8	6.2	1.1	24.0
1998年	9,540.2	6,935	1,054.9	1,550.7	▲ 0.6	▲ 5.3	▲ 17.8	55.9
1999年	10,155.9	7,290	995.8	1,870.1	6.5	5.1	▲ 5.6	20.6
2000年	10,954.7	7,745	950.7	2,259.1	7.9	6.2	▲ 4.5	20.8
2001年	12,205.4	8,515	898.5	2,791.7	11.4	9.9	▲ 5.5	23.6
2002年	13,638.1	9,138	863.9	3,636.2	11.7	7.3	▲ 3.9	30.3
2003年	15,329.6	9,912	867.1	4,550.6	12.4	8.5	0.4	25.1
2004年	17,615.0	11,038	876.2	5,700.6	14.9	11.4	1.0	25.3
2005年	20,627.1	12,292	906.4	7,429.0	17.1	11.4	3.4	30.3
2006年	24,262.3	13,921	983.8	9,357.9	17.6	13.3	8.5	26.0
2007年	29,471.5	16,689	1,108.1	11,674.3	21.5	19.9	12.6	24.8
2008年	35,289.5	19,488	1,203.2	14,598.4	19.7	16.8	8.6	25.0
2009年	40,288.2	21,863	1,273.3	17,152.1	14.2	12.2	5.8	17.5

資料：中国統計年鑑(2010)

Source: China Statistical Yearbook 2010

(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年増減率

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金（元） Average Wage (yuan)				対 前 年 増 減 率（%）Indices(preceding year=100)							
					名 目 賃 金Average Wage				実 質 賃 金Average Real Wage			
	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	5,348	5,553	3,934	7,728	18.9	17.3	21.1	19.9	1.8	0.4	3.7	2.6
1996年	5,980	6,207	4,312	8,521	11.8	11.8	9.6	10.3	2.8	2.7	0.7	1.3
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	7.8	7.6	4.7	6.7	4.5	4.4	1.6	3.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	15.5	13.5	17.7	1.6	16.2	14.2	18.4	2.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	11.7	11.4	8.4	9.8	13.2	12.9	9.8	11.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	12.2	11.8	8.4	10.8	11.3	10.9	7.5	9.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	16.1	17.0	9.8	10.7	15.3	16.2	9.0	9.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	14.2	15.0	11.5	8.4	15.4	16.2	12.6	9.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	12.9	13.0	13.0	10.1	11.9	12.0	12.0	9.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	14.0	14.5	12.7	11.3	10.3	10.9	9.1	7.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	14.3	15.4	14.9	11.2	12.5	13.6	13.1	9.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	14.6	14.4	15.1	14.4	12.9	12.7	13.4	12.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	18.5	20.2	20.0	15.6	13.4	15.0	14.8	10.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	16.9	16.0	17.2	17.6	10.7	9.8	11.0	11.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	11.6	12.7	13.8	9.8	12.6	13.7	14.8	10.8

資料：中国統計年鑑2010 Source:China Statiscal Yearbook 2010

(8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産 業 別 Sector	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
農、林、牧、漁業 Agriculture,Forestry,Fishery	6,884	7,498	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356
採掘業Mining	13,627	16,774	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038
製造業Manufacturing	12,671	14,251	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity,Gas and Water	18,574	21,543	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869
建築業Construction	11,328	12,578	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport,Storage and Post	15,753	18,071	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315
情報通信コンピューターサービス Information Transmission,Computer Service and Software	30,897	33,449	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	10,894	13,012	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	11,198	12,618	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860
金融業Financial Intermediation	20,780	24,299	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398
不動産業Real Estate	17,085	18,467	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	17,020	18,723	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494
科学研究、技術サービス業 Scientific Research,Technical Services	20,442	23,351	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy,Enviroment and Public Services	11,774	12,884	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159
家庭サービス業Services to Households and Other Services	12,665	13,680	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172
教育Education	14,189	16,085	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543
衛生、社会保障、社会福祉業 Health,Social Securities and Entertainment	16,185	18,386	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662
文化、スポーツ、娯楽業 Culture,Sports and Entertainment	17,098	20,522	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755
公共機関、社会団体 Public Management and Social Organization	15,355	17,372	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326
合 計 Total	13,969	15,920	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244

(出所)中国統計年鑑2010

Source:China Statiscal Yearbooh 2010

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
製造業 Manufactur	184,236	192,389	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340
合 計 Total	203,109	214,920	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416
年別人民元yuan／円yenレート	14.54	13.50	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00

(9) 中国省別従業員年平均賃金(2009年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省(区)別 Region			年平均賃金(単位: 元)(yuan)	円換算(円) (yen)	対全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	57,779	808,906	179.19
天	津	Tianjin	43,937	615,118	136.26
河	北	Hebei	27,774	388,836	86.14
山	西	Shanxi	28,066	392,924	87.04
内	蒙	Inner Mongolia	30,486	426,804	94.55
遼	寧	Liaoning	30,523	427,322	94.66
吉	林	Jilin	25,943	363,202	80.46
黒	龍	Heilongjiang	24,805	347,270	76.93
上	海	Shanghai	58,336	816,704	180.92
江	蘇	Jiangsu	35,217	493,038	109.22
浙	江	Zhejiang	36,553	511,742	113.36
安	徽	Anhui	28,723	402,122	89.08
福	建	Fujian	28,366	397,124	87.97
江	西	Jiangxi	24,165	338,310	74.94
山	東	Shandong	29,398	411,572	91.17
河	南	Henan	26,906	376,684	83.44
湖	北	Hubei	26,547	371,658	82.33
湖	南	Hunan	26,534	371,476	82.29
広	東	Guangdong	36,469	510,566	113.10
広	西	Guangxi	27,322	382,508	84.74
海	南	Hainan	24,790	347,060	76.88
重	慶	Chongqing	30,499	426,986	94.59
四	川	Sichuan	28,149	394,086	87.30
貴	州	Guizhou	27,437	384,118	85.09
雲	南	Yunnan	26,163	366,282	81.14
西	蔵	Tibet	45,347	634,858	140.64
陝	西	Shaanxi	29,566	413,924	91.69
甘	肅	Gansu	26,743	374,402	82.94
青	海	Qinghai	32,481	454,734	100.74
寧	夏	Ningxia	32,916	460,824	102.08
新	疆	Xinjiang	27,617	386,638	85.65
全国平均			32,244	451,416	100.00

(出所) 中国統計年鑑2010 Source: China Statistical Yearbook 2010

(注) 1元 = 14円 Note: 1yuan=14yen

(10)ブラジルの繭・生糸生産量推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1988/89	11,470
1989/90	15,829
1990/91	17,221
1991/92	17,586
1992/93	19,134
1993/94	18,260
1994/95	16,260
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11 〔見込み〕 〔Estimate〕	3,161 (71%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1988	1,748,996	29,150
1989	1,696,622	28,277
1990	1,693,206	28,220
1991	2,077,155	34,619
1992	2,296,053	38,268
1993	2,325,809	38,763
1994	2,535,440	42,257
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	770,000 (95%)	12,833
2011 〔見込み〕 〔Estimate〕	557,000 (72%)	9,283

資料: ブラジル製糸協会

注: ()内は対前年比

[]内の見込みは2011年2月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of February 2011.

(11) ブラジル繭、生糸・絹撚糸、絹織物の生産、輸入及び輸出状況(総括表)

Production, Import and Export of Raw Silk, Twisted Silk and Silk Fabrics in Brazil (Summary)

年次 Year	生産 Production	年次 Year	輸入 Import	年次 Year	輸出 Export
	生繭Wet Cocoon (ton)		乾繭Dry Cocoon (kg)		乾繭Dry Cocoon (kg)
94/95	16,260	95	82,000	95	101,095
95/96	15,368	96	14,000	96	68,760
96/97	14,811	97	-	97	341,000
97/98	14,594	98	-	98	569,200
98/99	10,305	99	-	99	60,000
99/00	8,473	00	-	00	-
00/01	9,916	01	1,890	01	73,600
01/02	10,238	02	-	02	220,483
02/03	9,966	03	-	03	118,574
03/04	8,005	04	-	04	47,350
04/05	7,146	05	5,000	05	12,326
05/06	8,051	06	-	06	4,030
06/07	8,617	07	-	07	72,000
07/08	6,266	08	-	08	-
08/09	4,835	09	-	09	1,000
09/10	4,439	10*	-	10*	1,000
年次 Year	生糸 Raw Silk (ton)	年次 Year	生糸Raw Silk (kg)	年次 Year	生糸と撚糸 Raw Silk and Twisted Silk (kg)
95	2,468	95	1,700	95	2,321,040
96	2,270	96	6,200	96	2,174,636
97	2,120	97	1,100	97	1,892,930
98	1,821	98	1,080	98	1,678,193
99	1,554	99	863	99	1,742,670
00	1,389	00	43,653	00	1,474,225
01	1,485	01	51,822	01	1,287,693
02	1,607	02	29,524	02	1,415,284
03	1,563	03	27,493	03	1,488,333
04	1,512	04	11,943	04	1,353,551
05	1,285	05	27,571	05	1,129,838
06	1,387	06	47,455	06	1,173,284
07	1,220	07	67,686	07	1,150,297
08	1,177	08	124,831	08	994,801
09	811	09	76,478	09	866,759
10	770	10*	40,000	10*	643,000
年次 Year	絹織物Silk Fabrics (ton)	年次 Year	絹織物Silk Fabrics (kg)	年次 Year	絹織物Silk Fabrics (kg)
95	128	95	168,500	95	8,000
96	53	96	129,900	96	200
97	56	97	119,600	97	550
98	97	98	55,300	98	121
99	74	99	47,900	99	2,472
00	106	00	54,701	00	488
01	106	01	63,241	01	2,699
02	163	02	44,664	02	332
03	167	03	54,282	03	1,068
04	177	04	91,078	04	2,429
05	210	05	182,725	05	9,090
06	146	06	117,426	06	16,405
07	162	07	102,906	07	26,698
08	159	08	150,837	08	4,217
09	112	09	124,192	09	2,773
10*	101	10*	110,000	10*	3,000

資料: ブラジル製糸協会

注: *印は見込み数値

Source: ABRASEDA

Note: *Forecast

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2011 年 7 月号 NO.19 平成 23 年 7 月 1 日発行

編集 / 発行
(問い合わせ先)

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
〒 100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5 階
TEL : 03-3214-3500
FAX : 03-3214-3511
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず